国史跡檜山安東氏城館跡

檜山城跡IV

一 令和元年度第4次発掘調査報告書 一



2020.3 能代市教育委員会

でできょう あと 檜山城跡IV

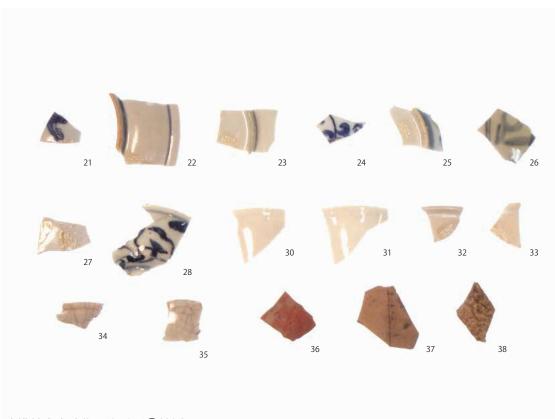
一 令和元年度第4次発掘調査報告書 一

2020.3 能代市教育委員会

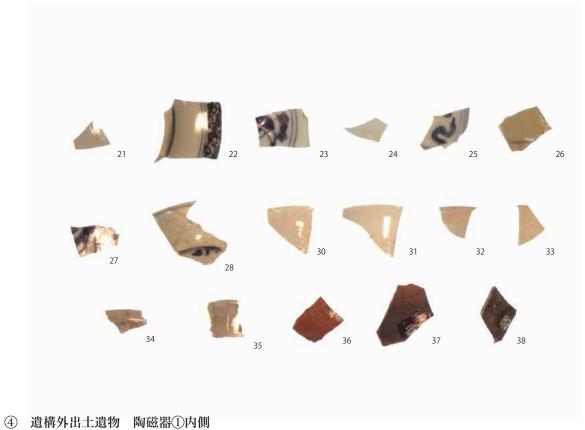


①出土遺物





③ 遺構外出土遺物 陶磁器①外側



本書は、令和元年度に実施した檜山城跡の第4次調査の成果をまとめたものです。

能代市では、これまで檜山地区を歴史の里と位置づけ、各種の施策を行ってまいりました。城跡や町並み散策などに訪れる人たちのための案内看板の設置や、北限の茶として知られる檜山茶の茶揉み体験などの名産を生かした事業も行われています。檜山城跡の調査もまた、その一環に位置づけられて、地域振興につなげていくことが求められております。

檜山城跡は、昭和55年に大館跡、茶臼館跡とともに、檜山安東氏 城館跡として国史跡に指定されました。平成28年度から国庫補助事 業による発掘調査を行い、令和元年度は第4次調査を実施しました。

調査の結果、通称「本丸」の造成の痕跡や、建物の可能性のある柱 穴群などが検出されたほか、15世紀末から17世紀初頭に属する陶磁 器や、金属製品、弾、製鉄関連遺物などが見つかりました。また、中 館から茶園への尾根筋や、将軍山地区から南に延びる白坂道では、城 内道の造成を行っている様子が明らかになりました。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、文化財保護のため、中世城館研究のために広く活用していただければ幸いに存じます。 最後になりましたが、本事業の実施にあたり、ご指導、ご助言を賜りました文化庁記念物課ならびに史跡檜山安東氏城館跡調査整備委員会をはじめ、関係機関の皆様に感謝申し上げます。

令和2年3月

能代市教育委員会 教育長 高 橋 誠 也

例 言

- 1 本報告書は、令和元年度に能代市教育委員会が調査を実施した檜山城跡の発掘調査報告書である。 当事業は国宝重要文化財等保存・活用費補助金の交付を受けて実施した。
- 2 本報告書の執筆は能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課公民館文化係主席主査播摩芳紀が担当した。
- 3 調査は文化庁及び秋田県教育委員会の指導を得て、能代市教育委員会が実施した。
- 4 調査及び本報告書の刊行にあたって次の方々からご指導・ご教示を賜った。(五十音順、敬称略) 秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 新井崇之 五十嵐一治 伊藤直子 近江俊秀 木戸雅寿 工藤清泰 栗山知士 小山美紀 斉藤利男 斉藤慶吏 嶋影壮憲 髙橋 学 檜山地域まちづくり協 議会 藤澤良祐 文化庁 八重樫忠郎 山口義伸 吉川耕太郎
- 5 本調査に関する全ての資料は能代市教育委員会が保管している。

凡例

- 1 遺構実測図等に付した方位は座標北である。
- 2 本報告書挿図中に使用した土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色 彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に拠った。
- 3 土層注記は基本層序にローマ数字を用い、遺構埋土にはアラビア数字を用いた。
- 4 遺構・遺物には以下の略記号を使用した。
 - SD 堀切・溝状遺構
 SK 土坑
 SKP 柱穴様ピット
 SM 道路跡

 RP 土器・陶磁器
 RM 金属関連遺物
 S 礫
 R 根

目次

巻頭カラー	
序	
例言・凡例・目次	
第1章 檜山城跡の概要・・・・・1	第3章 調査の記録・・・・・・・・
第1節 檜山城跡の立地・・・・・1	第1節 検出遺構と出土遺物・・・・5
第2節 歴史的環境・・・・・・2	第2節 現状変更判断試掘調査・・26
第2章 調査の概要・・・・・・6	第4章 まとめ・・・・・・3(
第1節 調査に至る経緯・・・・・6	図版
第2節 調査要項・・・・・・6	抄録
第3節 調査の目的・・・・・7	
第4節 調査の経過・・・・・7	
第5節 調査の方法・・・・・8	

第1章 檜山城跡の概要

第1節 檜山城跡の立地

檜山城跡の所在する能代市は、日本海に面し、米代川河口部に港をもち、下流域に開けた能 代平野に都市域が広がり、河川流域に集落が点在する。檜山城跡は能代平野に接して檜山川の 発する丘陵部に位置する。現在の檜山集落の裏山のようなかたちで見下ろす霧山にあったのが 檜山城跡で、霧山城とも呼ばれていた。現在公園となっている部分が古城(ふるしろ)と呼ばれ る場所にあたる。

米代川河口からは約12km内陸に位置し、標高は最高所の将軍山が約165m、古城地区の通称「本丸」が約146mほどである。地質は女川層の未固結を含む軟質の泥岩が基盤層として広く確認されているほか、古城地区には約20万年前の海成層である石倉山層が確認でき、更にその上に15万年前に形成された古砂丘が堆積している場所も見られる。石倉山層は図3の地質図に拠れば、沢を挟んだ北側尾根上の中館と呼ばれる周辺にも分布している。また、将軍山地区の女川層の上層にはシルト粘土の堆積も確認できる。なお、未固結泥岩のことを地元ではアマジャ

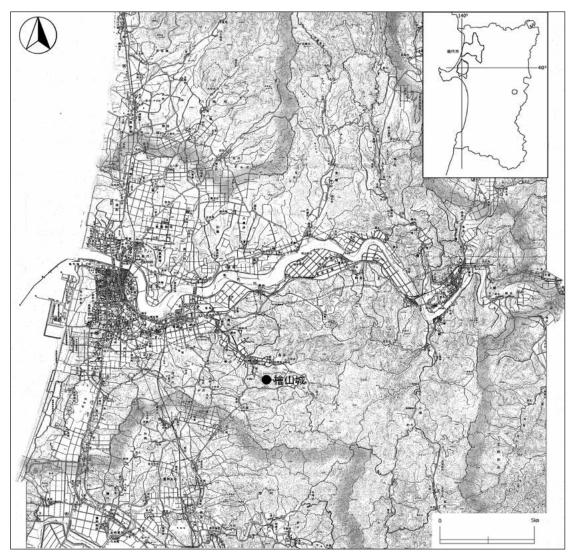


図1 遺跡位置図

クと呼んでおり、本報告書では土層注記等の表記に用いた箇所もある。

檜山城跡を中心として地理的特徴をみてみると、史跡指定されている丘陵の北側裾野を檜山川が西流し、その対岸、檜山城跡の北東方向に、檜山城を築城したとされる安東忠季の菩提寺 国清寺の跡があり、その東の丘陵に安東愛季の再興した八幡神社が現存する。

西裾側は現在の檜山の町並みや、近世多賀谷氏の居館のあった茶臼山があり、その西を近世 絵図にむじりき川として描かれる小川が流れる。これらを挟んだ対岸の丘陵は茶臼館跡であり、 一連の檜山城下町を形成していたと見られる。東側には沢が入り込んで城を区画し、南側も急 峻な沢地形で山城の要害的機能を生み出している。一方で、南東側には尾根上を通って三種町 岩川方面へと抜ける山道がある。城の防御機能としては地形が緩やかであるため、大堀切がつ くられ、城を画している。

第2節 歷史的環境

檜山川流域とその周辺には旧石器時代から近世までの遺跡が存在する。檜山城の使用された中世に属す る遺跡は19遺跡あり、安東氏に関わる伝承を持つ遺跡も含まれる。

檜山城が築城された年代を、近世史料である『新羅之記録』の記述を元に明応4年(1495年)とするのが 通説であるが、同時代史料からは、檜山城や檜山集落の存在は現在のところ確認できない。それ以前には、 能代平野周辺が元慶2年(878年)に起きた住民蜂起の際の野代村の所在地であるとも考えられ、檜山城跡 とともに史跡を構成する大館跡(11)は、当時の律令国家側の拠点「野代営(のしろたむろ)」の擬定地とも される。ところが能代市管内では9世紀後半の遺跡数は少なく、檜山周辺でも集落や鉄生産遺跡(37、38)、 祭祀遺跡(33)などの10世紀の遺跡が多く見られる。なお、檜山川流域のほ場からは、9世紀に属する遺 物も見つかっているが、表採であり、詳細は不明である。

その後、檜山地域でも15世紀までの須恵器系陶器は散見されるが、羽州街道の前身となる街道や集落、城館の有無についての情報が少ないのが実状である。文献から15世紀末とされる檜山城の築城後には、安東氏代々の居城として、城下に町場が形成、あるいは拡大していったことが想定される。近世以前には街道がある程度整備され、檜山川を使った舟運も含めた交通体系が出来上がっていたと思われる。

北方と関係の深い、地域色の濃い信仰として古四王神社の存在があり、現在は檜山神社となっている古四王神社が近世には茶臼館跡(19)にあったことが江戸期の絵図から読み取れる。

このほかにも中世の痕跡として、国清寺跡(16)や母体八幡神社、安東氏代々の菩提寺など縁の深い社寺が残るほか、檜山舞と名付けられた番楽が母体地区に伝わっている。近世の文献で檜山安東氏によって町立てされたとされる野代湊から米代川流域の鶴形地区まで、安東氏との結びつきが想定される日吉神社や、そのほか文化財や伝承などの分布が中世安東氏の存在を示している。

近世には佐竹氏の置いた小場氏が檜山城を使用したと考えられ、その後多賀谷氏が居城として入城したとされる。檜山城とは羽州街道を挟んだ西にある茶臼山に多賀谷氏の居館(18)がつくられる一方で、檜山城は元和6年(1620年)に破却された。米代川河口の野代湊は佐竹氏によって一層整備され、秋田湊と並ぶ重要な湊として使用された。檜山地区でも檜山の町を通る羽州街道や一里塚(8)、街道の松並木などが整備され、今もその痕跡を見ることができる。

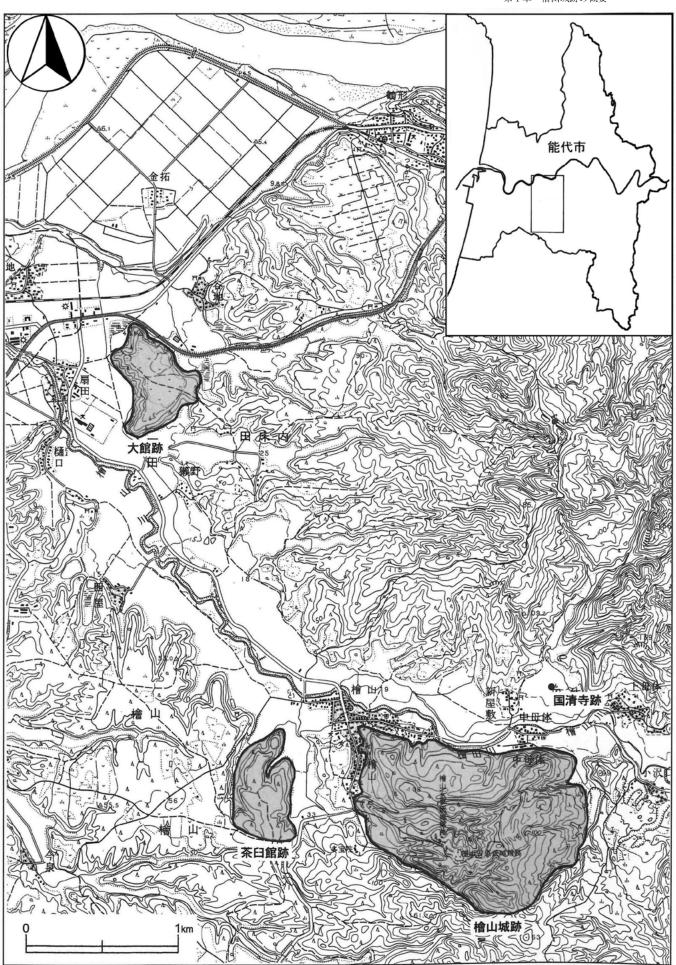
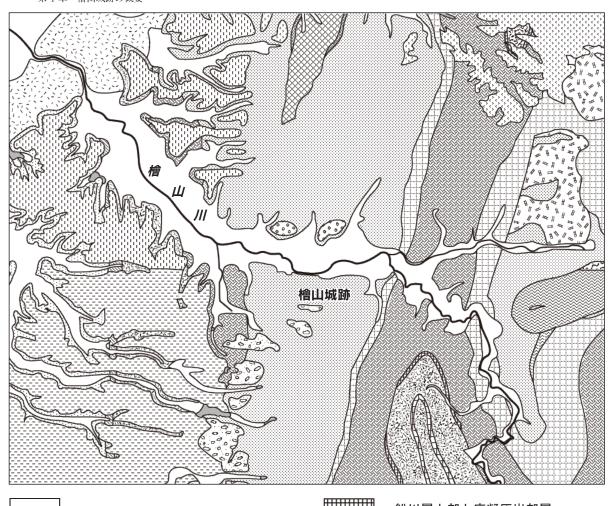


図2 史跡檜山安東氏城館跡位置図



	沖積層	船川層上部七座凝灰岩部層
	毛馬内段丘堆積物	船川層主部
	低位Ⅰ段丘堆積物	船川層下部七座凝灰岩部層
	潟西層 砂及び礫(泥及び泥炭伴う)	茂谷山流紋岩
	潟西層 礫・砂及び泥(亜炭を伴う)	素波里安山岩
	高位Ⅰ段丘堆積物	素波里安山岩 角閃石デイサイト溶岩
0000	石倉山層	素波里安山岩 紫蘇輝石普通輝石角閃石安山岩溶岩
	中沢層	女川層
	笹岡層	早口川層一ノ又沢玄武岩部層
	天徳寺層 シルト岩(砂岩・礫岩・酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩を伴う)	早口川層主部
	天徳寺層 酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩	池沼

(『能代市史 特別編 自然』付図をトレースして改変)

図3 檜山城跡周辺地質図

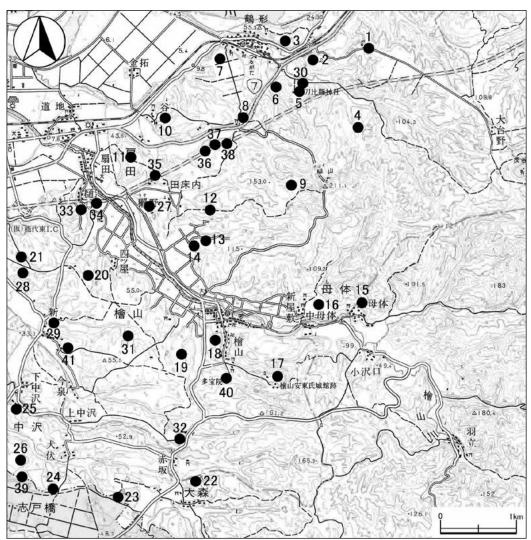


図4 周辺遺跡分布図

番号	遺跡 番号	遺跡名	所 在 地	時代	t	番号	遺跡 番号	遺跡名	所 在 地	時代
1	2-92	鶴形大台野遺跡	能代市字大台野	縄文		21	2-114	苗代沢遺跡	能代市鰔渕字苗代沢	古代、中世
2	2-94	赤館跡	能代市字外堤	中世		22	2-115	大森館跡	能代市大森字大森	中世
3	2-95	比丘尼館跡	能代市字外堤	中世		23	2-116	大森大台野遺跡	能代市大森字大台野	縄文
4	2-96	山神社前遺跡	能代市山神社前	縄文、吉	古代	24	2-117	中沢大台野遺跡	能代市大森字大台野	縄文
5	2-97	鶴形窯跡	能代市字山崎	近世		25	2-118	古館跡	能代市中沢字蟻古舘	古代、中世
6	2-98	大館跡	能代市字戸草沢	古代、「	世	26	2-126	蟻ノ台Ⅷ遺跡	能代市中沢字蟻の台	縄文
7	2-99 上ノ山遺跡		能代市字上の山台	縄文、こ	5代	27	2-169	獺野遺跡	能代市扇田字獺野	中世
<i>'</i>		工ノ山退跡	能化中子工の田白	中世、沙	丘世	28	2-171	新田沢遺跡	能代市桧山字新田沢	縄文
8	2-100	鴨巣一里塚	能代市字上の山、字谷地上	近世		29	2-172	中瀬戸沢遺跡	能代市桧山字中瀬戸沢	古代
9	2-101	八重掘館跡	能代市字山神社前	古代、「	世	30	2-173	山崎遺跡	能代市字山崎	古代
10	2-102	谷地館跡	能代市字田中谷地	古代、「	中世	31	2-180	上平張遺跡	能代市桧山字上平張	中世
11	2-103	大館跡	能代市田床内字大館	古代、「	世世	32	2-195	瓶長根遺跡	能代市中沢字瓶長根	縄文
12	2-104	二夕又遺跡	能代市田床内字二夕又	古代		33	2-199	樋口遺跡	能代市扇田字樋口	古代
13	2-105	三岳館跡	能代市桧山字上館	縄文、言	古代	34	2-200	岩ノ目遺跡	能代市扇田字岩ノ目	縄文、古代
13	2-105	二古印奶	比八川江川十二時	中世		25	5 2-201 縄手下遺跡		遺跡 能代市田床内字縄手下	旧石器、縄
14	2-106	三岳遺跡	能代市桧山字上館	縄文		33				文、古代
15	2-107	上母体遺跡	能代市母体字上母体家の下	縄文		36	2-202	鴨巣館跡	能代市田床内字鴨巣	古代、中世
16	2-108	国清寺跡	能代市桧山字蟹沢	中世		30 2-202		2-202 精末貼跡	比10日本四十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	近世
17	2-109	檜山城跡	能代市桧山字古城	中世、沙	丘世	37	2-203	鴨巣 遺跡	能代市字鴨巣	古代
10	2-110	多賀谷居館跡	谷居館跡 能代市桧山字霧山下	縄文、言	古代	38	2-204	鴨巣 遺跡	能代市字鴨巣	縄文、平安
10				中世、沙	丘世	39	2-206	割道Ⅲ遺跡	能代市中沢字大台野	縄文
19	2-111	茶臼館跡	能代市桧山字茶臼館	古代、「	世	40	2-207	小間木遺跡	能代市桧山字小間木	中世、近世
20	2-113	四ツ屋台遺跡	能代市扇田字四ツ屋台	古代		41	2-210	堤下遺跡	能代市桧山字堤下	古代

表 1 周辺遺跡一覧

第1章 檜山城跡の概要

【参考文献】

【参考文献】
秋田県教育委員会 2006『樋口遺跡』秋田県文化財調査報告書第411集 2007『鴨巣館跡・鴨巣Ⅰ遺跡・鴨巣Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第422集 2011『秋田県重要遺跡調査報告書Ⅱ─檜山安東氏城館跡(大館跡)調査─』大沢穠、鯨岡明、栗田泰夫、高安泰助、平山次郎 1985『森岳地域の地質』地域地質研究報告 地質調査所大沢穠、池辺穣、平山次郎、栗田泰夫、高安泰助 1984『能代地域の地質』地域地質研究報告 地質調査所工藤英美 1987「能代砂丘について」「能代山本地方史研究』4号 1992「能代砂丘について」「能代山本地方史研究』4号 1992「能代平野の成り立ち(その一)」『年報 能代市史研究』2号 1994「能代市史 資料編 考古」 2000『能代市史 資料編 考古』 4別編 自然』 第6代市史 福中編Ⅰ配始、ま代・由冊『

資料編 考古』 特別編 自然』 通史編 I 原始・古代・中世』 能代市史

『能代市史 通史編』「原始・古代・中世』 『能代市史 通史編』「近世』 能代市教育委員会 1978 『大館遺跡発掘調査報告書』 『享保十三年 檜山一円御絵図』 『天保二年檜山絵図』

調査の概要 第2章

調査に至る経緯 第1節

能代市教育委員会では、檜山城跡が檜山安東氏城館跡として昭和55年に史跡に指定された後、除草 などの保存管理を行ってきた。平成10年からの縄張り調査を経て、平成18年には能代市と二ツ井町が 合併し、平成28年度に史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画が策定された。平成29年度から整備を行っ ており、そのための情報を得るために発掘調査が平成28年度から行われている。今年度は4年目の調 査となる。

発掘調査は、整備のための情報を得ることを目的として、補助事業を受けて実施した。調査主体は能 代市教育委員会である。

第2節 調査要項

遺 跡 檜山城跡:史跡檜山安東氏城館跡(檜山城跡 大館跡 茶臼館跡)

秋田県能代市檜山字古城地内ほか 所 在 地

調査期間 令和元年5月22日~11月27日

調査面積 約208㎡

播 摩 芳 紀 (能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課公民館文化係主席主査) 調査担当

翔(能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課公民館文化係主事)

能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課 事 務局

> 課 長 田 口 俊 成

> > Щ 崹 和 夫

公民館文化係

長 藤 係 工 英 子

È. 査 舘 出 泰 樹

主 任 Ш 英利子 布

主 事 髙 松 佳 奈

工 藤 いくみ 臨時職員

臨時職員 越前谷 美和子 臨時職員 珍 田 一 馬

指 導 機 関 文化庁文化財部記念物課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県教育庁払田柵 跡調査事務所、史跡檜山安東氏城館跡調査整備委員会

調査作業員 加藤文子、加藤まさ子、佐伯房志、納谷鈴子、藤田利夫、清水実、田中勝広、松嶋大輔 整理作業員 川口久、川口奈緒

第3節 調査の目的

本調査は、史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画に示した発掘調査の一環として実施した。調査区は 古城地区の通称「本丸」「二の丸」で、城の中心部であったと想定される地区である。「本丸」では、 建物の有無や規模、東側虎口の有無を確認するために曲輪東側に調査区(HA)を設定した。「二の丸」 では、「三の丸」から「二の丸」への進入路を確認するため、現在の公園遊歩道が設けられている北縁 近くに調査区(NA)を設定した。「本丸」の調査区を第1調査区、「二の丸」を第2調査区、その他 に「本丸」曲輪造成の痕跡を確認するため「本丸」トレンチ(HT)を「本丸」北西に設定した。

これらと同時に、基準杭・案内板を設置する箇所の遺構の有無を確認することを目的とした、現状変更対応のための調査を、中館から茶園に続く尾根、白坂道(しろざかみち)付近2カ所、将軍山地 区南で行い、調査区名をそれぞれTP1~4とした。

第4節 調査の経過

発掘調査は、令和元年5月22日から断続的に11月27日の期間で実施した。現地での任意の基準点の測量も並行して行った。最初に現状変更対応のTP1を調査、6月3日に埋め戻しを終了した。6月7日には調査用道具置き場と休憩のためのコンテナハウスを設置した。6月10日から第1調査区の調査に入った。同時にTP2の調査を並行して行った。調査区南側から掘り下げを開始し、「本丸」東の括れ部分へ調査区を広げていった。堆積状況を確認しながら、精査を行い、必要に応じてサブトレンチを設定し、検出遺構、遺物出土位置、堆積状況などの記録を作成した。記録はトータルステーションと手実測によった。順次、7月16日に本丸トレンチを設定、翌17日より掘り下げを開始した。

7月25日、能代松陽高校のインターンシップで4名が発掘調査体験を第1調査区で行った。8月8日文化庁の現地指導を受け、翌9日調査整備委員会の指導を受けた。また、9月中に払田柵跡調査事務所の指導を受けた。

9月11日、第2調査区の掘り下げを開始した。9月19日より第1調査区の埋め戻しを開始し、第1調査区の44日間の調査は同24日に終了した。

11月7日、コンテナハウスを撤去完了した。11月11日、遺構、基本土層記録後、埋め戻し、「本丸」トレンチと第2調査区の調査を終了した。並行してTP3、4の調査を実施、11月27日までの7日間で行い、今年度の調査を終了、同日に撤収を完了した。

第5節 調査の方法

発掘調査は、調査区を面的に広げ、遺構・遺物の有無、土の堆積状況や遺構の造成状況の確認を行った。調査の記録は図面と写真によった。設定した調査区は国家座標を持つ杭を基準にトータルステーションで測量し、その位置を基準として平面実測を行った。平面実測、遺物の出土位置実測には遺構実測システムを用い、断面や微細図には手実測で対応した。写真撮影にはデジタル一眼レフカメラを用い、一部はコンパクトデジタルカメラも併用した。

基本層序は以下のとおりで、大きく5層に分けられた。第1調査区の平場の土層を基本とした。

I 10YR4/1 褐灰色土 表土 しまりあり 粘性弱

II 10YR4/2 灰黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 炭化粒極微量 地山ブロック

Ⅲ 10YR4/3 にぶい黄褐色土 遺物包含層 しまりあり 粘性やや弱 炭化物極微量 地山ブロック

N 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性弱 地山ブロック

V 10YR6/4 にぶい黄橙色土 地山 砂質 しまりややあり 粘性やや弱

第3章 調査の記録

第1節 検出遺構と出土遺物

第4次調査は、通称「本丸」を第1調査区とし、通称「二の丸」を第2調査区に設定して実施した。そのほかに、「本丸」北西に曲輪造成の痕跡を確認するためのトレンチを設定した。第1調査区は古城地区の主要な曲輪の通称「本丸」を調査することで、城の構築時期や、古城地区の性格の一端を解明するために建物の有無や規模の確認、土の堆積状況の把握を目指して設定した。第2調査区は、「三の丸」から「二の丸」への進入路の確認、土の堆積状況や、建物の有無や規模などを確認するために設定した。

第1調査区は、南からHA1~HA5を設定した。HA4はHA4とHA4Aに分かれる。主に、HA1~HA4が平場の建物の有無を確かめるため、HA4A、HA5が本丸東側の括れた部分に想定される虎口の確認のために設定した。第2調査区はNA1として、「二の丸」出入り口の確認と建物の有無を確認するために設定した。「本丸」トレンチはHTとして、「本丸」曲輪の造成の痕跡を確認するために設定した。

検出遺構は土坑40基、溝跡9条、柱穴様ピット102基、道跡1条である。時期は、出土遺物、遺構確認面から中世~近世初頭と考えられる。

1 第1調查区 (図6~11)

調査区をHAとし、細分したブロック毎に番号を付した。1、2、3、4、4A、5を設定した。通称「本丸」の東辺にある括れ部分に虎口を想定して、それに続く平場に調査区を設定した。調査区の標高は約145.4~147.0mほどである。

検出遺構

土坑39基、溝5条、柱穴様ピット83基を検出した。平場からやや傾斜した範囲からの検出である。半さい等掘り下げた遺構のうち、主に遺物を出土したものについて記述する。

4A、5では、盛土が確認された。4の南西から3の北東、5の南で切岸状に地山が切られていることが確認できた。5では粘土範囲も確認されている。4Aでは、黒褐色土の盛土の下にステップ状の地形が確認されたが、硬化面は見つからなかった。4、4Aでは黒褐色土層の上層に暗褐色土層の整地層がみられ、生活面があったと考えられる。やや硬化面と思われる部分も4北東サブトレ内で確認できる。

SKO1土坑

HA1に位置する。地山面で検出した。土層は5層に分けられた。

SKO2土坑

HA1に位置する。地山面で検出した。土層は5層に分けられた。

SKO3土坑

HA1に位置する。地山上層で検出した。土層は3層に分けられた。唐津1点が出土した。

SKO4土坑

HA1に位置する。地山上層で検出した。土層は4層に分けられた。1層は検出面の堆積土と考えられる。大窯1点、中国産染付1点、鉄製品が出土した。

SKO5土坑

HA1に位置する。地山上層で検出した。土層は9層に分けられた。土器1点、鉄製品1点が出土した。

SKO8土坑

HA1に位置する。地山上層で検出した。土層は2層に分けられた。

SKO9土坑

HA1に位置する。IV層中で検出した。土層は4層に分けられた。底部に2つの掘り込みを持つ。大窯4前の折縁皿、唐津碗、釘3点が見つかった。

SK10土坑

HA1に位置する。土層は12層に分けられた。大窯4前の折縁皿、唐津碗、釘などが見つかった。 SKPO33、O44に切られる。

SK11土坑

HA1に位置する。土層は9層に分けられた。堆積土は6層までが砂質で、7層以下が粘土質が増して くる。9層は炭の層で焼土はみられない。志野鉄絵皿1点、砥石1点が出土した。

SK12土坑

HA1に位置する。土層は単層である。SKPO17と切合い、当遺構の方が新しい。唐津と釘が出土した。

SK13土坑

HA1に位置する。地山面で検出した。土層は3層に分けられた。SKO1に切られる。

SK16土坑

HA2に位置する。土層は3層に分けられた。SD15に切られる。大窯2丸皿が出土したほか、確認 面で釘が出土した。

S K 1 7土坑

HA3に位置する。土層は5層に分けられた。上層2層は近代以降の堆積である。南東にSKP1基を持つ。龍泉窯青磁鉢の破片が4点、大窯2皿1点、絵唐津、釘、銭貨などが出土した。

SK18土坑

HA1に位置する。土層は5層に分けられた。SKPO42と切合う。O42が未調査であるため、 新旧は判然としない。折れた短小な釘7点を含む鉄製品が出土した。

S K 1 9 土坑

HA1に位置する。土層は3層に分けられた。1層は $\mathbb N$ 層が入り込んでいる。底部に掘り込みを持つ。 釘が出土した。

SK22土坑

HA3に位置する。9層に分けられた。1層は表土である。SKP116と切合う。底部に浅い掘り込みを持つ。備前系擂鉢や唐津、砥石、釘が出土した。SKP116からは確認面で大窯1点が出土した。

SK26土坑

HA2に位置する。2層に分けられた。中国産染付皿1点のほか、折れたものを含む釘がまとまって出

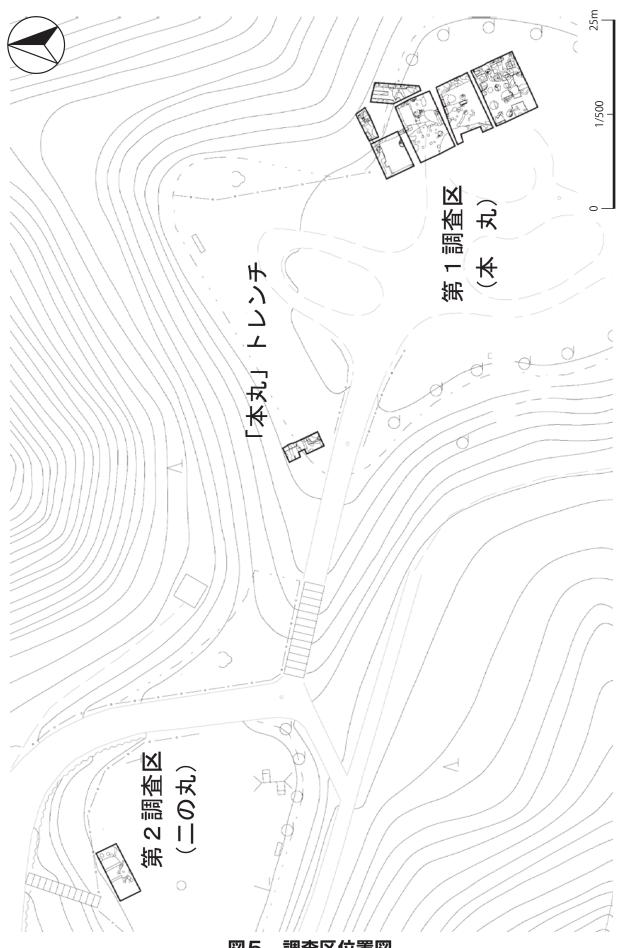


図5 調査区位置図

土した。

SK28土坑

HA2に位置する。6層に分けられた。底部に浅い掘り込みを持つ。

SK51土坑

HA2に位置する。15層に分けられた。上部7層は検出面より上の堆積層である。底部に掘り込みを持つ。複数のSKPと切合う。

SD15溝跡

HA2に位置する。北西から南東方向に延び、南東端はHA2中央で終わっている。4層に分けられた。 SK16を切る。中国産染付皿、白磁、大窯皿、絵唐津、刀子、釘が出土した。

SK35溝跡

HA3に位置する。HA3南東壁から中央に延び、北東に屈曲する溝として検出した。中央サブトレンチから曲がって以降のプランは不明瞭である。土層は3層に分けられた。SK17に切られるほか、HA3中央でSKPO65に切られる。大窯3丸皿とかわらけ、釘、軽石が出土した。

SKP009

HA1に位置する。土層は6層に分けられた。6層は粘土質が強い。炭が小枝状や材の形を保ったまま出土している。底部に掘り込みを持つ。SKPO44に切られる。中国産染付端反輪花皿が破片で出土し接合した。釘が出土した。

SKP044

HA1でに位置する。土層は3層に分けられた。炭を多量に含む。SK10、SKP009を切る。大 窯3前丸皿、唐津皿、志野、釘、棒状の銅製品が出土した。

SKP067

HA3に位置する。土層は6層に分けられた。SKPO68と切合う。おそらく2層相当の堆積中で残存値約1cmの骨が出土した。

遺構外出土遺物(図14~17、巻頭カラー、図版21・22)

陶磁器は、大部分が中世から近世初頭に属する。わずかに肥前磁器がみられる。器種としては碗、皿が多く、小杯、天目茶碗、茶入、擂鉢などがみられる。そのほかに、かわらけ、瓦質土器なども出土した。 遺物包含層は、表土、撹乱層の下層となるが、撹乱層からの出土も多い。 S K 1 7 出土の青磁鉢の破片は H A 3 、5 に分布していた。

鉄製品には刀子、板状、釘、棒状、形態不明のものがみられ、金属製品として、銭貨や弾、線状や、容器の口縁部とみられる銅製品がみられた。琥珀と思われる個体が割れた状態で出土した。土製品として土錘、鉄関連遺物として、フイゴ羽口、鉄滓、鉄塊と思われる磁着する塊などが出土している。また、溶融した破片や粘土の広がりも工房的機能との関連が想定される。

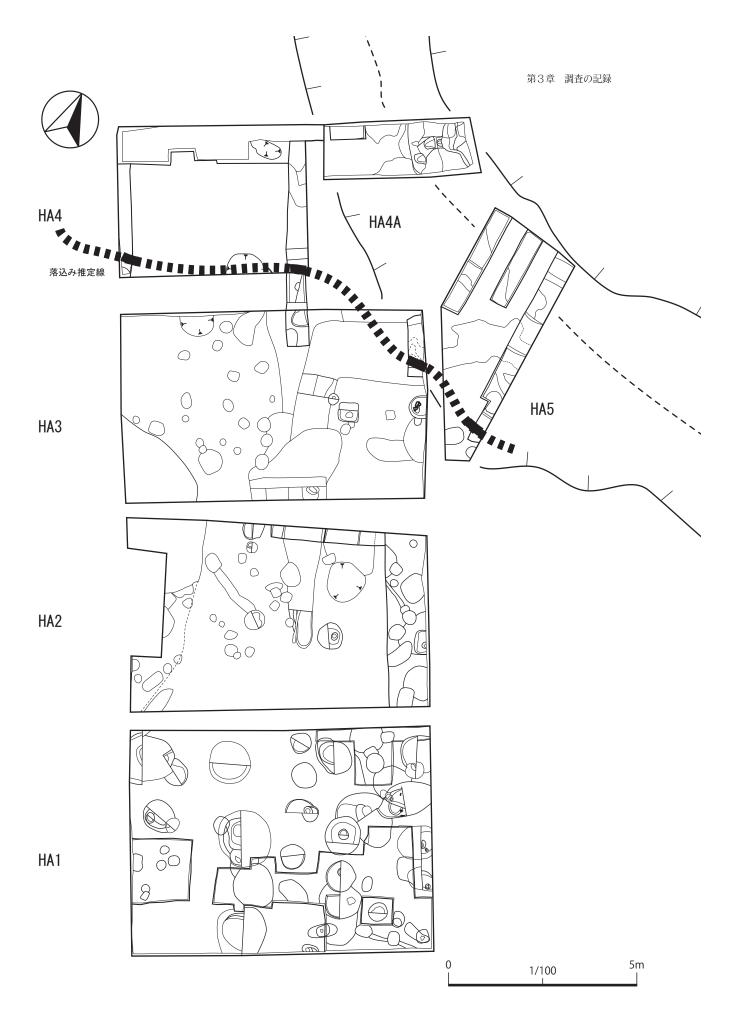


図6 第1調査区全体図

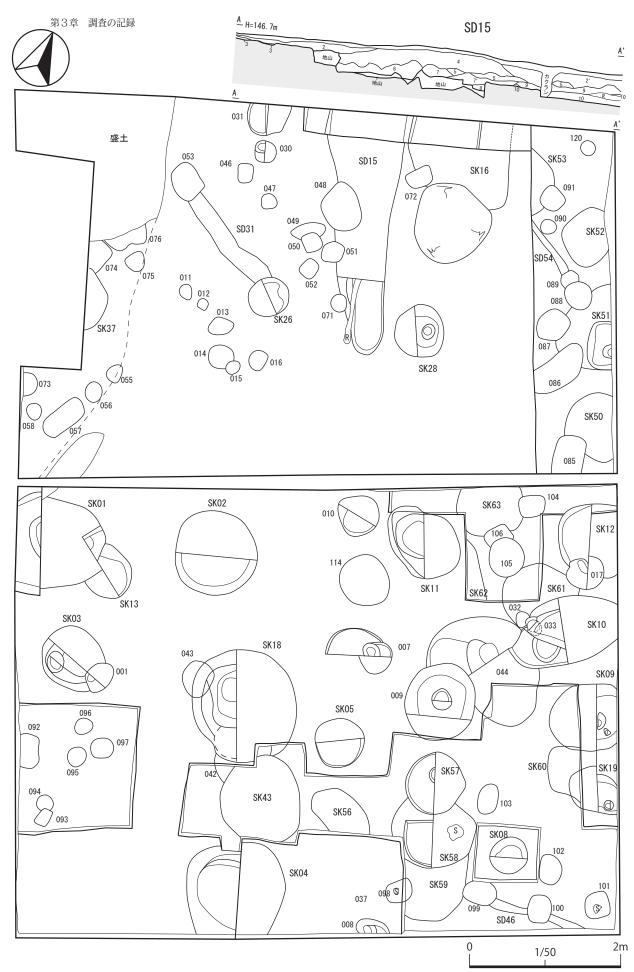
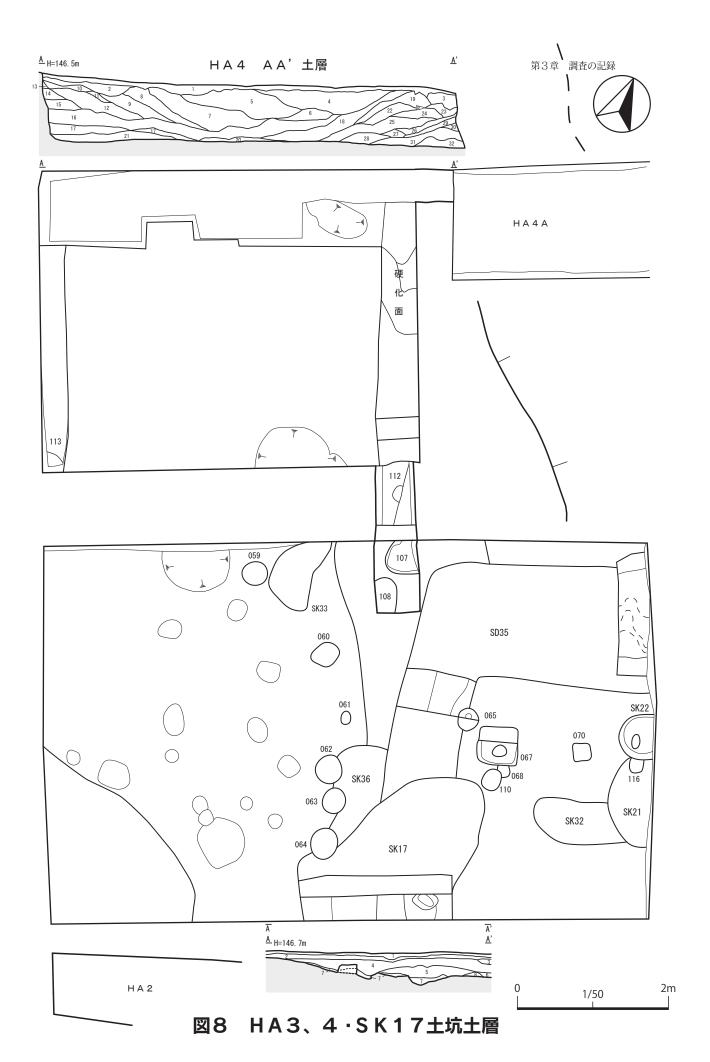
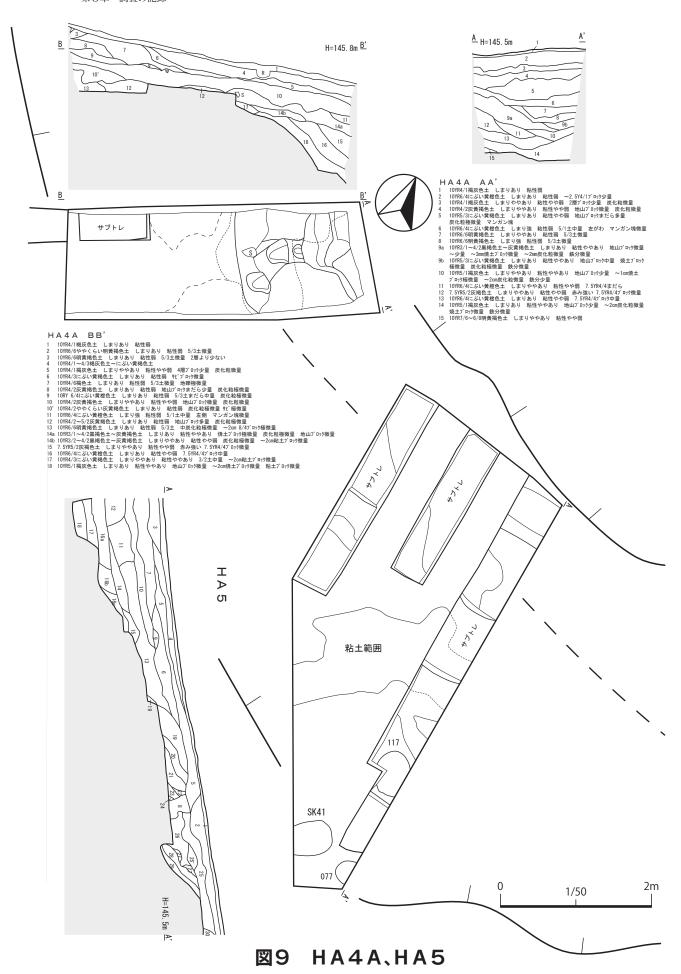
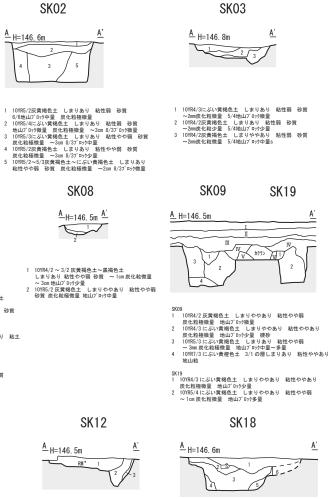


図7 HA1, 2·SD15溝跡土層





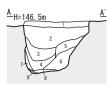
第3章 調査の記録 SK01 SK13 SK01 A' A H=146.7m A H=146.6m 1 10184/2灰黄褐色土 しまりあり 粘性卵 砂質 2 10184/2灰黄褐色土 しまりあり 粘性卵 砂質 2 10184/2灰黄褐色土 しまりあり 粘性卵 砂質 10185/4にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性卵 砂質 1/47 pr)シ皇 10185/4にぶい黄褐色土 しまりややあり 粘性卵 砂質 2 10185/4にがい黄褐色土 しまりややあり 粘性卵 砂質 2 10185/3にが、黄褐色土 しまりややあり 粘性卵 砂質 2 10185/3にが、黄褐色土 しまりややあり 松性や砂醇 淡化粘極微量 地山7 pr)シ皇 10185/3にが、黄褐色土 しまりのか 数性やや卵 淡化粘極微量 地山7 pr)シ皇 2 10185/3にが、黄褐色土 しまりめり 数性ややあり 液化粘極微量 地山7 pr)シ皇 10185/3にが、黄褐色土 しまりめり 数性ややあり 液化粘極微量 地山7 pr)シ皇 10185/3に変積色土 しまりめやあり 液化粧極微量 地山7 pr)シ皇 10185/3に変積色土 しまりかやあり 液化粧極微量 地山7 pr)シ皇 2 SK05 SK04 A' <u>A'</u> A H=146.8m A H=146.6m 1 10/85/3 にぶい責補色士 しまりやや弱 粘性弱 砂質 ~2mm 族化物器 2 10/85/2 原環補色土 しまりやや弱 粘土 放化熱極機量 2 10/85/2 原環補色土 しまりやや弱 粘性弱 砂質 ~2mm 族化熱機量 5/6 地川 7 19/9を量 2 10/85/3 にぶい責補色土 しまりやや弱 粘土機能種機量 2 10/84/3 にぶい貴補色土 しまりあり 粘性やや弱 砂質 ~3mm 族化粒機量 5/6 地川 7 19/9を量 2 10/85/6 養減色土 しまりあり 粘性やや弱 砂質 ~3mm 族化粒機量 5/6 地川 7 19/9を量 4 10/85/1 にぶい貴補色土 しまりあり 粘性ややあり 粘土 成化粧機機 2 10/85/1 によい貴補色土 しまりあり 粘性ややあり 10/85/1 に対している機能量 2 10/85/1 によりあり 粘性のあり 粘土 6/6 地川 7 19/9を置 6 10/85/1 によりあり 粘性の形 粘土 6/6 地川 7 19/9を置 7 10/85/1 によりあり 粘性の形 粉土 6/6 地川 7 19/9を買 7 10/85/1 によりあり 粘性の形 粉土 6/6 地川 7 19/9を買 7 10/85/1 によりあり 粘性の形 砂質 5 層上7 19/9を買 8 10/86/6 明黄褐色土 しまりあり 粘性の砂質 5 層上7 19/9を買 8 10/86/6 明黄褐色土 しまりあり 粘性の砂質 5 10/85/1 によりあり 粘性の砂質 5 10/85/1 によりあり 粘性の砂質 5 10/85/1 によりあり 粘性の砂質 5 10/85/1 によりあり 1 10/85/1 によりまり 1 10/85/1 によりあり 1 10/85/1 によりまり 1 10/85/1 によりまり 1 10/85/1 によりまり 1 10/85/1 によ SK11 SK10





A H=146.5m

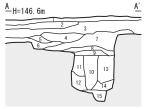
A'



- 1 10785/4にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 4/27 かり彼比特極機量 6/6-7/67 のかまだら 2 10784/3におい黄褐色土 レまりややあり 彩性やや弱 旅化粒極衛星 地山7 の7物量 3 10785/4 × 66 にぶい黄褐色土 大黄橙色土 しまりやや弱 粘性やや弱 成化粒極微量 2 指土と他山

第3章 調査の記録

SK51





- 1 10784 / 褐灰色土 しまりあり 粘性器 2 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性器 炭化粒極微量 3 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性器 炭化粒極微量 4 10785 / 4 によい実褐色土 しまりあり 粘性器 5 10785 / 4 によい実褐色土 しまりあり 粘性器 6 10786 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性や砂器 7 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性や砂器 8 10785 / 3 にぶい実褐色土 とまりあり 粘性や砂器 9 10785 / 3 にぶい実褐色土 火土りあり 粘性や砂器 9 10785 / 4 にぶい実褐色土 とまりあり 粘性やや器 9 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性やや器 炭化粒極微量 10 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性やや器 炭化粒極微量 地山ブロウル母 11 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性ややあり 炭化粒極微量 地山ブロウル母 12 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性ややあり 水性ややみり 炭化粒極微量 地山ブロウルタ 7 2 2 10 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性ややあり 13 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまりあり 粘性ややあり 14 10785 / 4 にぶい実褐色土 やや明るい しまりやあり 15 10785 / 4 にぶい実褐色土 や砂明るい しまりやあり 15 10785 / 4 にぶい実褐色土 ・シャ明るい しまりやあり 8 15 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまり第 お性ややあり 炭化粒極量 15 10785 / 4 にぶい実褐色土 しまり第 粘性ややあり 炭化粒微量



SK22



SK26



1 10YR4/2 灰黄褐色土 しまりややあり 粘性ややあり ~ 1cm 変化物微量 RMI 2 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 皮化粒極微量 地山混

 $\frac{A}{}$ H=146.6m

SK28

- 1 10/084/2 灰黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 ~ 0m 炭化粒電量 ~ 3m 硬砂7 0m/沙量 2 10/085/3 により黄褐色土 しまりあり 発性やや弱 炭化粧棒機量 硬砂7 0m/沙量 地山7 0m/中量 3 10/08/2 欠乗物色土 しまりあり 粘性やや弱 炭化粧棒機量 4 7.5 PR ~ 10/08/4 にぶい最色土 しまりあり 粘性やや弱 5 10/08/4 欠乗務色土 しまりや明 粘性やや弱 炭化粧棒機量 硬砂7 0m/移成量 地山車少量 6 10/08/5 欠 反射核色土 であり 中朝 粘性や時弱 炭化粧棒機量 地山7 0m/9 1 10/08/5 欠 10/08/5 大野桃色土 しまりやや弱 粘性やや弱 炭化粧棒機量 地山7 0m/9 1 10/09/5 大野桃色土 しまりや砂锅 粘性やや弱 炭化粧棒機量 地山7 0m/9 1 10/09/5 1

SKO1~51土坑 図10

第3章 調査の記録

SD15中

- 1 10YR3/2 ~ 4/2 黒褐色土~灰黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 地山プロック少量
- しまりあり 粘性やや弱 地山/「ロッか量 Clam 炭化塩製造土 灰栗褐色土 しまりあり 粘性やや弱 地山/ ロッか中量 Clam 炭化製機製量 Clam 炭化製機製量 10785.7 実機を土 しまりややあり 粘性や砂調 4/2 少量 10785.7 は実施としまりあり 粘性やや弱 4/2 少量 お性やや弱 4/2 か量 お性やや弱 4/2 か量 お性やや弱 4/2 か量

SK17, SD35



- 1 10/R3/1~3/2 基格色土 しまりややあり 粘性ややあり 地址自敬量 ~ 1om 成化粒微量 2 10/R3/2 無格色土 しまりあり お性ややあり 地山プロックシ星 皮化粒極微量 3 10/R4/2 反英格色土 しまりあり 粘性やや弱 皮化粒極微量 4 10/R4/3 にが、資格色土 しまりやの 液化粒極微量 度化粒極微量機 5 10/R5/3 にぶい資格色土 しまりややあり お性ややあり 5/3 土少量 地山ブロックシ星 皮化粒極微量機 5 10/R5/3 にぶい資格色土 しまりややあり お性ややあり 4/37 ロックサ星 炭化粒極微量

SKP065 SD35



 $\underline{\text{A}}_{\text{H=}146.8\text{m}}$

SKP008

- 2
- 35 10783/2 ~ 4/2 黒褐色土・灰紫褐色土 しまりあり 私性やや弱 地山7 ロッ7物量 ~ 1cm 既化粒微量 10786/2 「こよい黄褐色土 しまりあり お性やや弱 地山7 ロッ7中量 版化基格微量 10786/4 にぶい黄褐色土 しまりあり お性やや弱 5/3 土を倒いる量 ~ 6cm 成化粒微量 下部に集中

SKP009



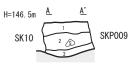
- 10784/2~3/反黄褐色土~黒褐色土 しまりあり 粘性やや器 ~1cm 液化粒微量 1084(2 皮質褐色土やや鋼)・ よりあり お他やや第~1cm 液化硬硬量 2% 地山プロック型 装性やや器 ~2cm 液化酸钾量 2% 10784/2 反策褐色土 しまりあり 実性やや器 ~1cm 液化酸钾量 2% 10784/2 反策機色土 しまりあり 実性や砂器 ~1cm 液化酸钾量 10784/2 反策機色土 しまりあり 対性が砂器 ~1cm 液化酸钾量 10786/4 にあい黄橙色土 しまりあり 熱性やや器 ~3cm 液化酸钾量 10786/4 にあい黄橙色土 しまりあり 熱性ややあり ~3cm 液化粒钾量

SKP010



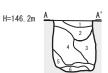
- 1 10/784/2 灰黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 ~ Lon 硬砂/ Inf またら微量 2 10/785/3 Lon 黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 硬砂/ Inf が高上が、黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 ~ Lon 硬砂/ Inf が優白 上りあり おせやの ~ Lon 硬砂/ Inf が優白 上りあり おけい あ 1 10/78/3 Lon 黄褐色土 しまりややあり 粘性 や砂器 硬砂 Inf が優白 上 しまりややあり 粘性 や砂器 硬砂 Inf が優白

SKP044



- 1 107R4/3にぶい黄褐色土 黄み強い しまりあり 粘性器 ~ 2cm 炭化粧微量 地山ブロウ微量 緑樹量 2 107R4/2 欠英褐色土 しまりややあり 粘性あり ~ 2cm 炭化粒少量 3 107R4/3にぶい黄褐色土 しまりややあり 粘性ややあり 炭化粒常量 地山ブロウ物量

SKP067



- 1 10/98/2 灰黄褐色土 しまりあり 粘性やや閉 地山プロウ海量 政化銀管量 ~ 5mm 株土プロウ格酸量 2 10/98/3 にが実積色土 しまりあり 粘性やや調 ~ 2m 地山プロウ溶量 放化粧物量 3 10/98/3 ~ 50 にぶい黄褐色土 しまりややあり 粘性やや弱 地山プロウタ音量 仮化粧物量 4 10/95/3 にが黄褐色土 しまりあり 粘性ややあり ~ 3m 地山プロウウ油量 ~ 3cm 灰化栽酸量 ~ 3cm/7碳 億 5 10/95/3 にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性ややあり 炭化粧極微量 6 10/95/3 にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性ややあり 炭化粧極微量 6 10/95/3 にぶい黄褐色土 しまり強 粘性ややあり 炭化粧極微量

 - 0 2m 1/50

図11 SD溝跡·SKP柱穴様ピット

(土層注記)

S D 1/5 1 10m3/1 転死色土 しまりあり 粘性やや陽 2 10m3/1 にぶい責格色土 しまりあり 粘性やや陽 2 10m4/3 にぶい責格色土 しまりあり 粘性やや陽 2 10m5/3 - 5/2 にぶい責格色土 しまりあり 粘性やや陽 2 10m5/3 - 5/2 にぶい責格色土 しまりあり 粘性やや陽 2 10m5/3 - 5/2 にぶい責格色土 しまりあり 粘性やや陽 2 10m5/3 2 - 4/2 黒褐色土 一次黄褐色土 しまりあり 粘性やや時 2 10m3/2 - 4/2 黒褐色土 一次黄褐色土 しまりあり 粘性やや時 2 10m3/2 - 4/2 黒褐色土 しまりかあり 粘性やや時 2 10m3/2 10m3/2 2 10m3/2

- H A 4 A A A
 1 101784/18成役主 しまりあり 粘性弱
 1 101784/18成役主 しまりあり 粘性弱
 1 101784/18成役主 しまりあり 粘性物 族化粒極微量
 3 101786/6ややくらい資料色土 しまりあり 粘性やや弱 成化粒極微量 地山プロウ極微量
 5 101785/3によい資料色土 しまりあり 粘性やや弱 成化粒極微量 地山プロウ神量
 6 101785/3によい資料色土 しまりあり 粘性やや弱 成化粒極微量 地山プロウ神量
 9 10185/20反映視色土 しまりあり 熱性やや弱 成化粒極微量 地山プロウ神量
 9 10185/20反映視色土 しまりあり 熱性やや弱 成化粒極微量 地山プロウ神量
 10185/20万映視色土 しまりあり 熱性やや弱 成化粒極微量 地山プロウ神量
 10185/20万映視色土 しまりあり 熱性やや弱 成化粒極微量 地山プロウ神酸量
 10185/20万映視色土 しまりあり 熱性やや弱 成化粒極微量 地山プロウ神酸量
 10185/20万映視色土 しまりあり 熱性やや弱 が高地極微量 地山プロウ神酸量
 10185/20万映視色土 しまりあり 熱性やや弱 が高地が出現を関
 10185/20万映視色土 しまりあり 熱性やや弱 が高地が出現を置
 10186/20万以青褐色土 しまりあり 熱性やや弱 一位の地域振動量 ~30mbulプロウ酸量
 10186/20万以青褐色土 しまりあり 熱性やや弱 一位の地域振動量 ~30mbulプロウ酸量
 101876/315以青褐色土 しまりあり 熱性やや弱 小面が振動を置 ~30mbulプロウ酸量
 101876/315以青褐色土 しまりあり 熱性やや弱 地山プロウか単まじる
 10186/41にぶい黄褐色土 しまりあり 熱性神の弱 地山プロウか単まじる
 10186/41にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性神 15/12か量 板山が回りかまだら中量 数化粒極微量
 101876/61明黄色土 しまりあり 粘性神 15/12か9 地山プロウがまだら中量 数化粒極微量
 101876/61以野黄色土 しまりあり 粘性弱 15/12か量 板化極微量
 101876/61以野黄色土 しまりあり 粘性弱 15/12か量 板化極極微量
 101876/61以下线色土 しまりあり 粘性砂や弱 地山プロウかまたの中量 数化粒極微量
 101876/61以下线色土 しまりあり 粘性神の弱 地山プロウかまたの中量
 101876/61以下线色土 しまりあり 粉性神の弱 地山プロウか変 数化粒極微量
 101876/61以下线色土 しまりあり 粉性神の弱 地山プロウか変 数化粒極微量
 101876/61以下线色土 しまりあり 粘性弱 15/12か量 放化粒極微量
 101876/61以下线色土 しまりあり 粘性弱 15/12か量 放化粒極微量
 101876/61以下线色土 しまりあり 粘性弱 5/12か量 放化粒極微量
 101876/61以下线色土 しまりあり 粘性質 5/12か量 15/12か量 放化極極微量
 101876/61以下线色上 15/13かり 粘性弱 5/12か量 15/12か量 放出が日内が日本 15/13か日 15/14か量 15/14か日 15/14か日

| Nork4/7機灰色土 しまりあり 粘性やや弱 2 10784/7機灰色土 しまりあり 粘性やや弱 2 10784/2 灰質褐色土 しまりあり 粘性やや弱 地山抗微量 3 10784/2 灰質褐色土 しまりあり 粘性やや弱 地山がのまだら中量 - 10m 数性銀型 6 10782/2 ~ 4/2 満株色土 一次質褐色土 しまりあり 粘性やや弱 セルアのナブ・カリ 一部 1 10782/2 ~ 4/2 満株色土 一次質褐色土 しまりややあり 粘性やや弱 皮化酸塩酸 皮化酸塩酸 2 10784/3 にぶい資格色土 しまりややあり 粘性やや弱 地山プロック まだら多量 波化粘硬酸土 しまりややあり 粘性やや弱 地山プロックまだら多量 波化粘硬酸金 また 10785/3 にぶい資格色土 しまりかやあり 粘性やや弱 ~ 2cm 地山プロック少量 皮化粒極酸金 放化粘硬酸金

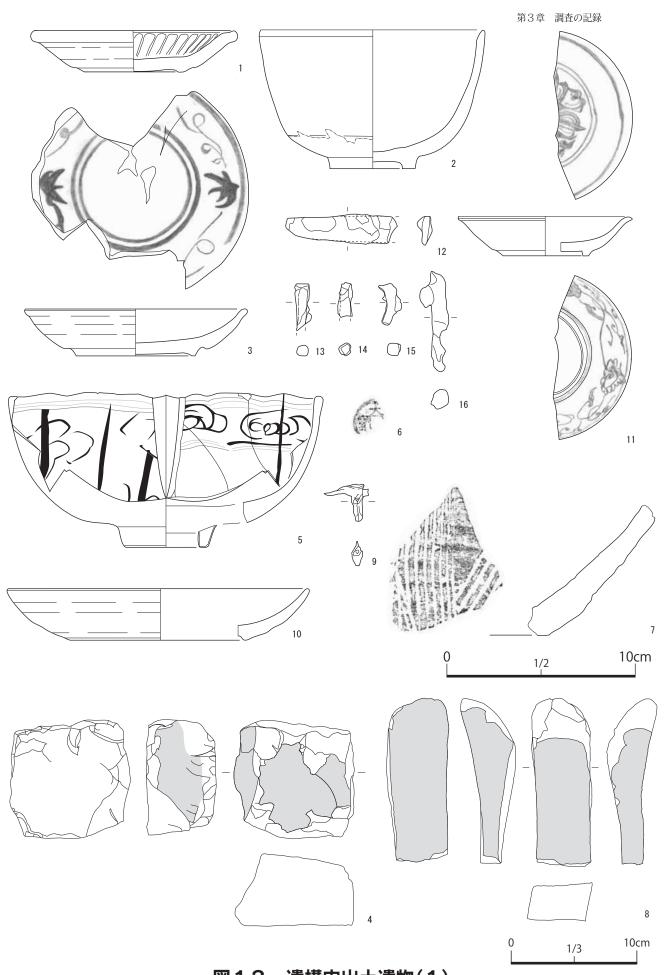


図12 遺構内出土遺物(1)

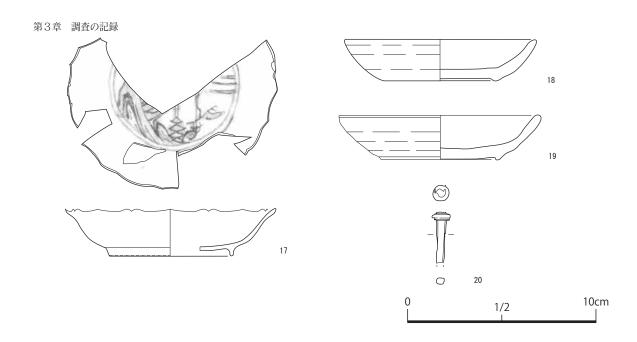


図13 遺構内出土遺物(2)

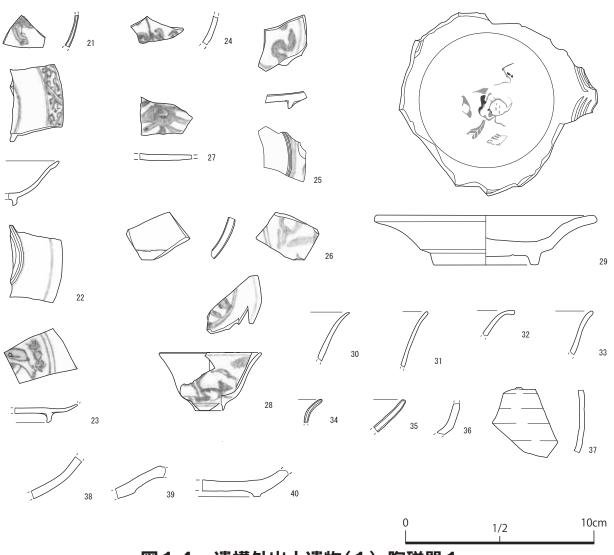


図14 遺構外出土遺物(1) 陶磁器1

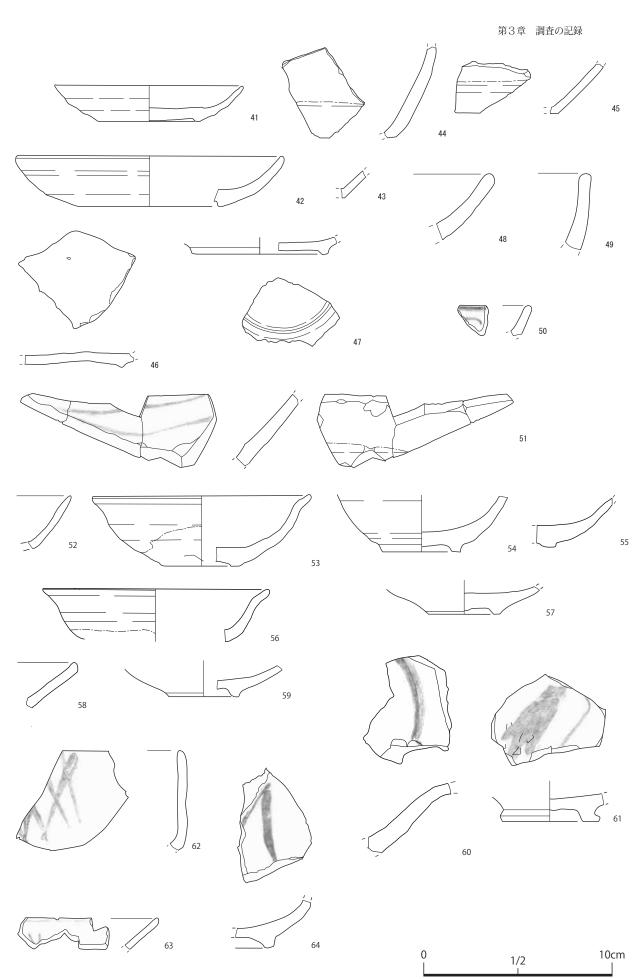


図15 遺構外出土遺物(2) 陶磁器2



図16 遺構外出土遺物(3)陶磁器3・土器

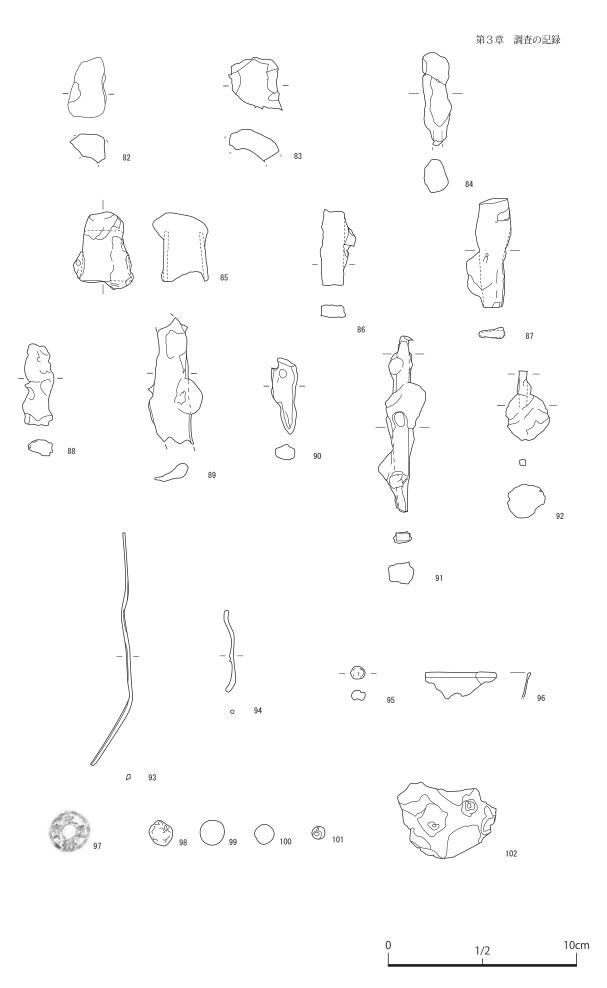
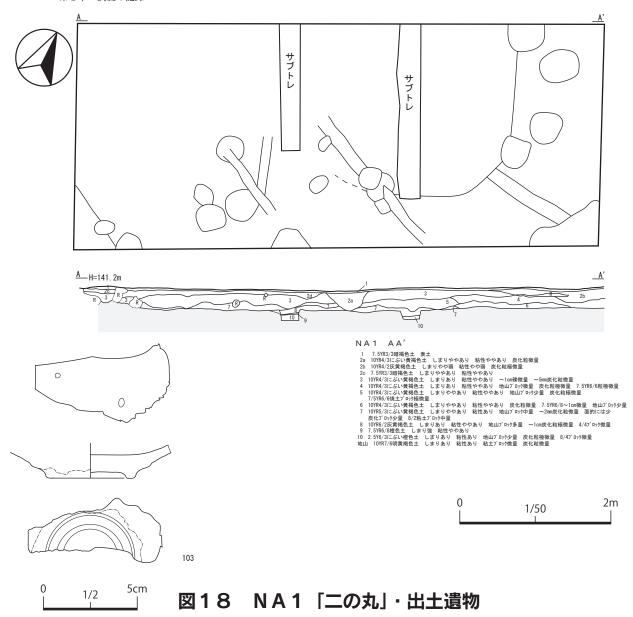


図17 遺構外出土遺物(4)土製品·金属製品·鉄滓



2 第2調査区

NA1「二の丸」(第18図)

通称「二の丸」北縁の遊歩道の登り口付近の平場に、「三の丸」からの進入口を確認するため設定した。 調査区の標高は、約141.6~141.7mほどである。

検出遺構

溝3条、柱穴様ピット16基が検出された。溝は南東から北西へほぼ並行しており、一連の遺構の可能性がある。これらの遺構以外に、北縁に向かってやや落ち込む地形が確認された。硬化面は確認されていない。

出土遺物(図18、図版21)

中国産染付、茶入や、国産の大窯、唐津皿 (103)、釘や板状鉄製品などが出土した。近世以降の遺物も出土している。

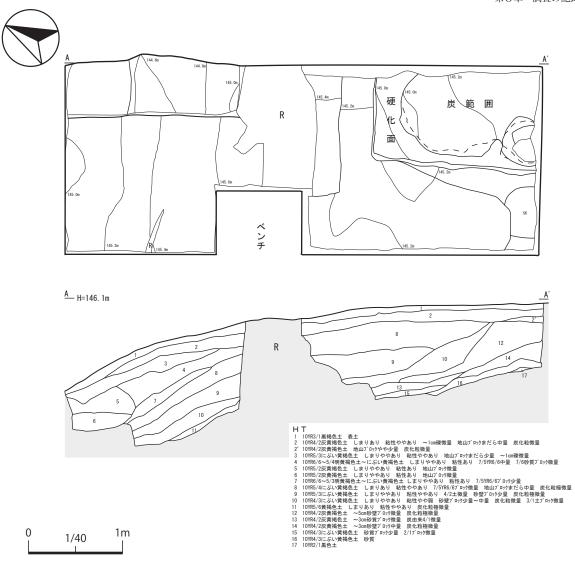


図19 HT「本丸」トレンチ

3 「本丸」トレンチ

HT(第19図)

通称「本丸」の北西部に、造成の様相を確認するため、切岸から平場にかけて設定した。「二の丸」から「本丸」への遊歩道の北側にあたる。標高は約145.1~146.1mである。地山までは掘り下げていない。

検出遺構

土坑1基、柱穴様ピット1基が検出された。また、明黄褐色土と、にぶい黄褐色土による切岸の造成の 痕跡が確認された。平場では、硬化面と炭の堆積層が見つかった。

出土遺物

釘1点が出土した。

第2節 現状変更判断試掘調查

発掘調査のための基準杭設置と、檜山城跡の整備の一環である案内板を設置する箇所について、覆土 堆積の状況を確認するために行った。2m×3m以内のテストピット(以下TP)を設定し、確認、記 録保存の後、埋め戻して現状に復旧した。

TP1(第20、21図)

基準杭と案内板設置予定箇所について遺構の有無を確認するために設定した。中館から茶園方面に続く尾根道の星場台方面への分岐点に相当する。調査区の標高は約95.4~95.8mである。

検出遺構・出土遺物

溝状の落ち込みと、1基の柱穴様ピットを検出した。遺物は出土しなかった。

TP2(第20、21図)

基準杭設置予定箇所について遺構の有無を確認するために設定した。将軍山地区から南方向に尾根伝いに城外へ延びる白坂道を望む、白坂道西側の丘陵頂部に位置する。調査区の標高は約151.5m~151.7mである。

検出遺構・出土遺物

遺構は検出されなかった。全体に後世の削平の可能性がある。遺物は出土しなかった。

TP3(第20、22図)

案内板設置予定箇所について遺構の有無を確認するために設定した。将軍山地区から南方向に尾根伝いに城外へ延びる白坂道上に相当する。地表面の観察からは土橋状の尾根として確認できる。調査区の標高は約142.2m~142.6mの馬の背状の尾根である。

検出遺構・出土遺物

硬化面と、盛土による造成が確認された。道跡と考えられる。硬化面は東側にスライドしており、地滑りの痕跡と推察される。遺物は出土しなかった。

TP4(第20、22図)

案内板設置予定箇所について遺構の有無を確認するために設定した。古城地区から将軍山曲輪に続く 城内道が、大堀切方面に分岐する平場上に位置する。調査区は標高約150.4mである。

検出遺構

柱穴様ピット1基が検出されたほか、盛土による曲輪造成の痕跡が発見された。

出土遺物(図22、図版21)

3層付近から、擂鉢1点(104)が出土した。

小 結

TP1~4調査地点での地山はシルトで、TP1は女川層由来のアマジャク礫を多量に含む。現状変更判断のための調査であり、TP2で遺構のないことが確認できた。その他の地点では、TP1で城内

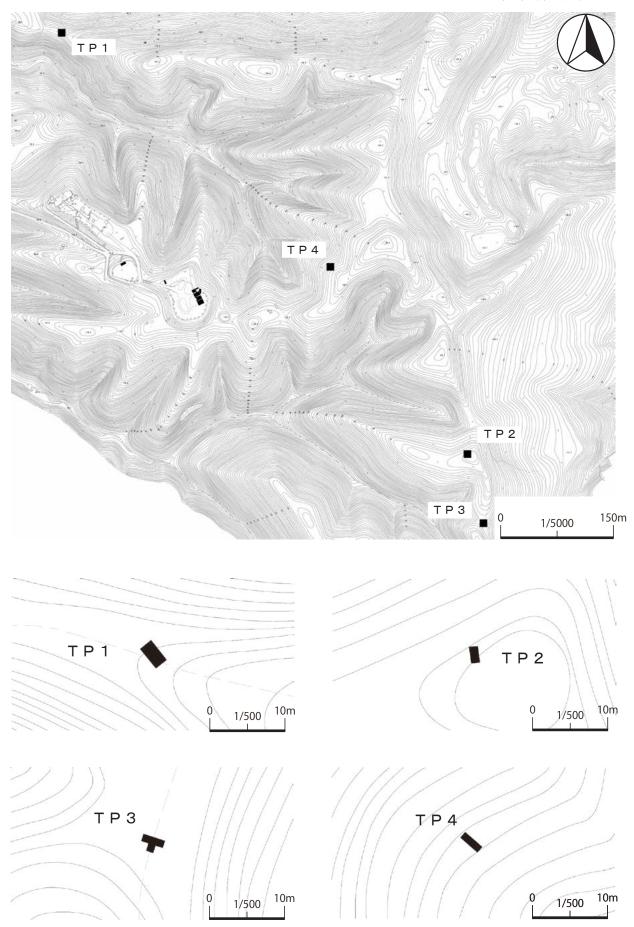
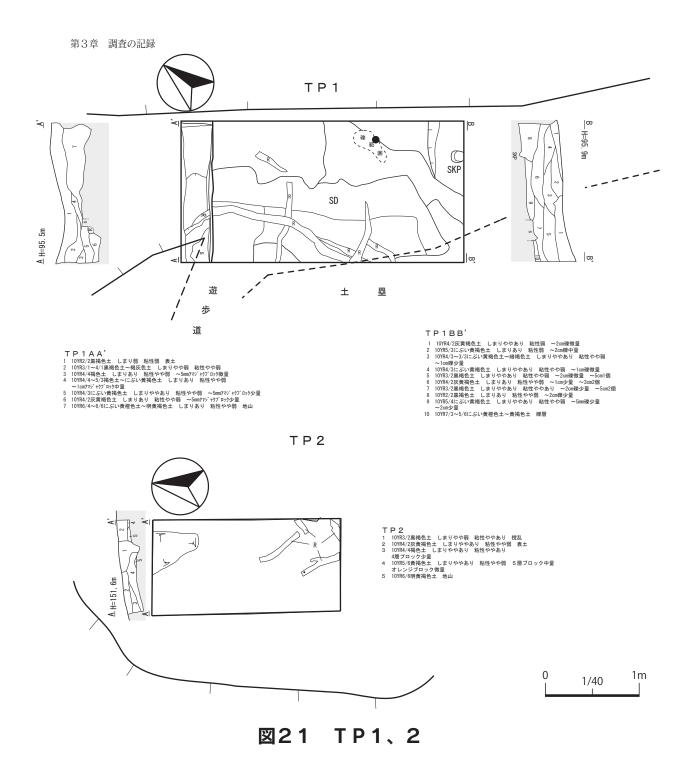


図20 TP配置図・位置図



道に関わると思われる溝状の落ち込みが確認された。硬化面は確認されていない。TP3は地表面観察で土橋状に加工されたことが想定される馬の背状の尾根である。盛土造成で作られていることが明らかになったほか、硬化面が確認され、道として使われていたことが判明した。TP4は古城地区から将軍山曲輪への城内道とみられる地形のルート上にあるやや開けた箇所に相当する。ここから大堀切へは、道の南東側の曲輪に入って、それから南の城内道へと進む。TP設定箇所は、小さな平場とも捉えることができる。城内道と考えられるルート上には硬化面は検出されなかった。この平場は、盛土によって造成されていることが判明した。意図的に道幅を広げて、道にしては広い空間を作り出していると考えられる。擂鉢が出土したことから、近くに生活空間があったと想定でき、一段上の曲輪からの流れ込みの可能性が考えられる。

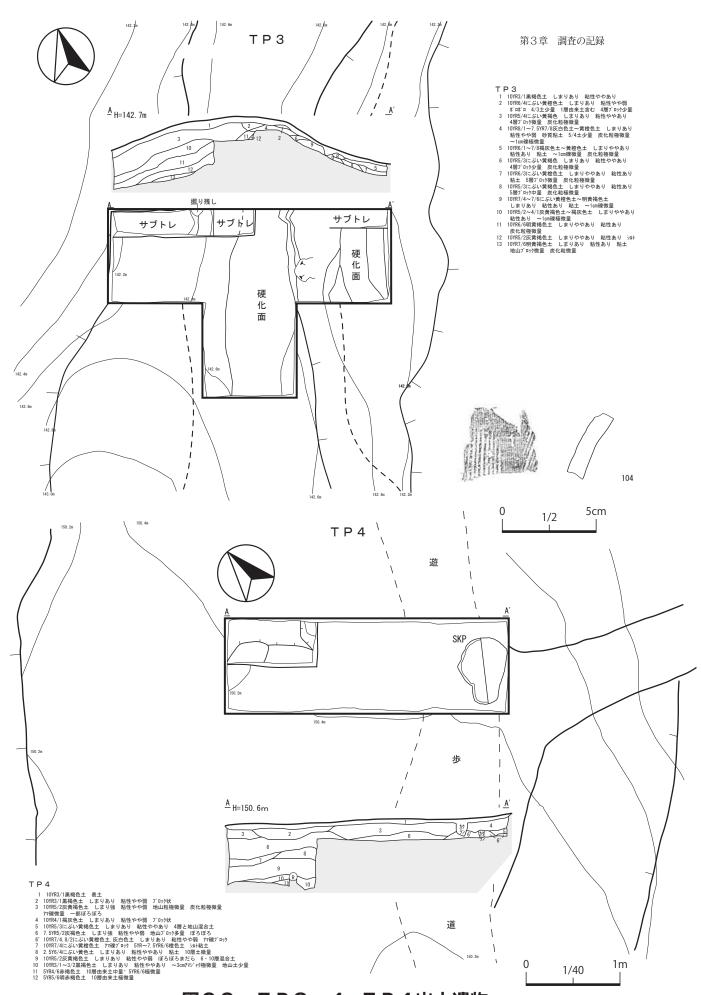


図22 TP3、4·TP4出土遺物

第4章 ま と め

1. 出土遺物

檜山城跡の第4次調査では、中世から近世初頭に属する貿易陶磁器、国産陶器や銭貨、鉄製品、線状や棒状、弾などの金属製品、鉄生産に関わる羽口、鉄滓などの遺物が出土した。接合後の陶磁器の出土数は384点で、金属製品を含めると遺物の総数は500点以上となる。遺構内出土や残存率の高い個体を中心に図化し、載録した。

貿易陶磁器

調査では122点が出土した。内訳は中国産の染付66点、青磁12点、白磁37点、茶入6点、褐釉1点となる。大部分が第1調査区からの出土である。21点を図化し、うち3点は遺構内からの出土である。

SKPOO9から出土した輪花皿(17)は数点が接合した。小杯(28)は接合したもののほかに、紋様の似通っているものがあり、同一個体の可能性もあるが、点数としては別個体としてカウントした。青磁は、点数は少ないものの、希少な器種が出土している。龍泉窯産の鉢(5)は主にHA3に破片が散らばった様相で見つかった。SK17からの出土が多い。腰折れの稜花皿(29)、はHA4A黒褐色土層の中からの出土である。16世紀末以前の層と考えられる層で、皿自体も15世紀末からの生産と考えられるため、時期的には矛盾しない。白磁は端反皿の口縁部が出土している。哥釉の端反碗と皿(34・35)が含まれており、2個体以上が出土している。褐釉は矮小な破片1点、茶入れは福建省産が2点以上出土しているほか、第2調査区NA1からも出土した。主な時期は16世紀から17世紀初頭で、15世紀までさかのぼる可能性のある個体も含まれる。

国産陶器

中世から近世初頭に属すると考えられる遺物が251点出土した。唐津が多く、ついで瀬戸美濃大窯の出土が多い。そのほか古瀬戸(39)が1点、志野16点や、越前、信楽、備前なども見られる。器種は、大皿を含む皿、碗が主体で、越前は擂鉢と壺、備前、信楽は擂鉢である。2点出土の天目茶碗(44・45)は国産であった。産地が不明な遺物には備前系の擂鉢や、瓷器系甕が含まれる。大部分が第1調査区の出土である。

唐津は絵唐津や胎土目の皿を含む。遺構内からの出土はHA1で多く見られるほか、SD15からも出土した。HA4、HA4Aでは整地層と考えられる暗褐色土層から出土しており、16世紀末以降の地業、あるいは少なくとも16世紀末の生活面と考えられる。大窯は1期から4期までを含む。4期の折縁皿(1)はHA1で複数の遺構から出土した破片が接合した。16世紀末以降の埋め戻しによる堆積と考えられる。志野は大窯期から登窯1期までを含む。出土位置から、HA1の堆積には17世紀初頭の造成があったことがわかる。擂鉢には備前系の形態を示すが、産地が不明な遺物が数点見られた。

第2調査区からも、大窯、唐津の出土があったが、矮小なために図化したのは唐津胎土目皿1点 (103) のみである。また、将軍山地区の南に設定したTP4からは越前産擂鉢 (104) 1点が出土した。

1 日 日日 日本 日本 日本 日本 日本 日本									
2 回12 無額カラー1 SK 09・10 医津 瀬 田本 第 10 10 10 10 10 10 10	No.	挿図No.	図版No.	出土地点	層位他	器種	種別	部位	産地・分類
3 回12	1	図12	巻頭カラー1	SK09·10		大窯	折縁皿		大窯4前
4 図12 参班カラー1 SK11 RQ2 石製品 総石 378.5g お映業形を前 所服 身 野球業形を前 所服 身 野球業形を前 所服 身 野球業形を前 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	2	図12	巻頭カラー1	SK09·10		唐津	碗		
1 日 1	3	図12	巻頭カラー1	S K 1 1		志野	鉄絵皿		登1
6 回12	4	図12	巻頭カラー1	S K 1 1	RQ2	石製品	砥石		378.5g
7 回12 参照カラー1	5	図12	巻頭カラー1	S K 1 7	確認面	青磁	鉢		龍泉窯16c前
8 図12 参照カラー1 SK22 所別9 図12 参照カラー1 SK26 RM9 飲料品 釘 頭印荷 1.5g 木質 1.0g 図12 参照カラー1 SD15 RP1 大薬 皿 1 SD15 RP1 外付 小皿 口縁底部 B群 16c前 1.5g 木質 112 図12 参照カラー1 SD15 構認面 鉄料品 37 別印荷 1.5g 木質 122 図12 参照カラー1 SD15 構認面 鉄料品 37 別印荷 1.5g 14 図12 参照カラー1 SD15 構認面 鉄料品 37 別印荷 1.5g 14 図12 参照カラー1 SD15 構認面 鉄料品 37 別印荷 1.5g 14 図12 参照カラー1 SD15 構認面 鉄料品 37 別印荷 1.5g 14 図12 参照カラー1 SD15 構認面 5数品 37 別印荷 2.1g 1.4g 17.7g 18	6	図12	巻頭カラー1	S K 1 7	RM	銭貨	大□□寶		1.2g
9 図12 書館カラー1 SK26 RM9 数製品 釘 原配布 1.5g 木質 10 図12 書館カラー1 SD15 RP1 大流 四 12 図12 書館カラー1 SD15 保証面 対数品 刀子 BBT 16c向 13 図12 書館カラー1 SD15 保証面 対数品 釘 細部有 1.5g 14 図12 書館カラー1 SD15 保認面 対数品 釘 組部有 1.5g 15 図12 書館カラー1 SD15 保認面 対数品 釘 組織有 2.1g 16 図12 書館カラー1 SSF004 大深面 対域 対域 五 大深面 大窓口 大窓口 <td< td=""><td>7</td><td>図12</td><td>巻頭カラー1</td><td>SK22</td><td>RP7</td><td>備前系</td><td>擂鉢</td><td>体部</td><td>備前系</td></td<>	7	図12	巻頭カラー1	SK22	RP7	備前系	擂鉢	体部	備前系
10 図12 巻値カラー1 SD15 RP1 大窯 四 口縁毛部 BB 16c向 15g 11g 図12 図12 図12 図12 図12 巻値カラー1 SD15 確認面 試験品 カア 月子 月子 月子 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	8	図12	巻頭カラー1	SK22		石製品	砥石		294.5g
11 図12 整頭カラー1 SD15 RP1 条付 小皿 口縁底部 B群 16c前 12 図12 整頭カラー1 SD15 解認面 数契品 刀子 第16c前 1.5g 1.4g 図12 整頭カラー1 SD15 解認面 数契品 釘 卵前有 1.5g 1.4g 図12 参頭カラー1 SD15 解認面 数契品 釘 卵前有 2.1g 1.4g 1.5g 1.5g 1.4g 1.5g	9	図12	巻頭カラー1	SK26	RM9	鉄製品	釖	頭部有	1.5g 木質
12 図12 巻頭カラー1 SD15 確認面 飲製品 刀子 頭部有 1.5g 1.5g 1.4g 212 巻頭カラー1 SD15 確認面 飲製品 釘 頭部有 1.5g 1.4g 1.5g 1.	10	図12	巻頭カラー1	SD15	RP1	大窯	ш		
13 図12 巻頭カラー1 SD15 確認面 鉄製品 釘 頭部有 1.5g 1.4g 1.4g	11	図12	巻頭カラー1	SD15	RP1	染付	小皿	口縁-底部	B群 16c前
14 図12 巻頭カラー1 SD15 確認面 鉄製品 釘 頭師有 2.1g 2.1	12	図12	巻頭カラー1	SD15	確認面	鉄製品	刀子		8.5g
15 図12 巻頭カラー1 SD15 碗部面 鉄製品 釘 京部有 2.1g	13	図12	巻頭カラー1	SD15	確認面	鉄製品	釖	頭部有	1.5g
16 図12 巻頭カラー1 SD15 RM3 鉄製品 釘 ア.7g BB	14	図12	巻頭カラー1	SD15	確認面	鉄製品	釖		1.4g
17 図13 巻頭カラー1 SKPOO9 染付 輸花皿 大窯 大窯 大窯 大窯 大窯 大窓 大窓 大窓	15	図12	巻頭カラー1	SD15	確認面	鉄製品	釖	頭部有	2.1g
18 図13 参照カラー1 SKP 0 4 4 大窯 内禿皿 大窯2 19 図13 参照カラー1 SKP 0 4 4 大窯 丸皿 大窯3前 20 図13 参照カラー1 SKP 0 4 4 大窯 丸皿 大窯3前 21 図14 参照カラー2 HA2 RP7 鋼製品 体球 頭部有 3.2g 22 図14 参照カラー2 HA3 RP67 染付 皿 体部 16c 図方襷 23 図14 参照カラー2 HA3 RP121 染付 皿 底部 16c 優半 4 を調カラー2 HA4 RP174 染付 皿 底部 16c 図方襷 5 図14 参照カラー2 HA4 RP404 染付 皿 底部 16c 図 6 図14 参頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 底部 16c 7 図14 参頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 底部 16c 8 図14 参頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 底部 16c 9 図14 参頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 底部 16c 9 図14 参頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 底部 16c 10 図14 参頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 口臓部 16c 11 図14 参頭カラー2 HA4 RP404 ル報 口臓部 16c 12 図14 参頭カラー2 HA2 RP19 白磁 小報 口臓部 16c 13 図14 参頭カラー2 HA3 RP53 白磁 焼取回 口臓部 16c 33 図14 参頭カラー2 HA4 RP186 白磁 焼取回 口臓部 16c 34 図14 参頭カラー2 HA3 日本4	16	図12	巻頭カラー1	SD15	RM3	鉄製品	釘		7.7g
19 図13	17	図13	巻頭カラー1	SKP009		染付	輪花皿		B群
20 図13 参酬カラー1 SKP044 RP7 銅製品 棒状 頭部有 3.2g 21 図14 参酬カラー2 HA2 RP195 染付 皿 休部 EP116c後半 編輯文 22 図14 参酬カラー2 HA3 RP67 染付 皿 休部 16c 四月檸 24 図14 参調カラー2 HA4 RP174 染付 皿 休部 16c 伴 25 図14 参調カラー2 HA4 RP174 染付 皿 休部 16c 伴 26 図14 参調カラー2 HA4 RP404 染付 皿 休部 16c 27 図14 参調カラー2 HA4 RP404 染付 皿 底部 16c 28 図14 参調カラー2 HA3 RP54 染付 少杯 口底部 16c 29 図14 参調カラー2 HA2 II層 白磁 小碗 口縁部 16c 31 図14 参調カラー2 HA2 II層 白磁 小碗 口縁部 16c 32 図14 参調カラー2 HA3 RP1	18	図13	巻頭カラー1	SKP044		大窯	内禿皿		大窯2
21 図14 巻頭カラー2 HA2 RP195 染付 皿 体部 E附16c後半 蝋蠣文 22 図14 巻頭カラー2 HA3 RP67 染付 小皿 口線部 16c 四万襷 23 図14 巻頭カラー2 HA3 RP121 染付 皿 底部 16c後半 24 図14 巻頭カラー2 HA4 RP174 染付 皿 底部 16c後半 25 図14 巻頭カラー2 HA4 RP174 染付 皿 底部 16c後半 26 図14 巻頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 底部 16c 27 図14 巻頭カラー2 HA2 RP24 染付 皿 底部 16c 28 図14 巻頭カラー2 HA3 RP54 染付 皿 丘底部 16c 30 図14 巻頭カラー2 HA3 RP54 染付 JMR 口底部 16c 30 図14 巻頭カラー2 HA2 RP19 白磁 小碗 口線部 16c 31 図14 巻頭カラー2 HA2 RP19 白磁 小碗 口線部 16c 31 図14 巻頭カラー2 HA3 RP53 白磁 端反皿 口線部 16c 32 図14 巻頭カラー2 HA3 RP53 白磁 端反皿 口線部 16c 33 図14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 端反皿 口線部 16c 34 図14 巻頭カラー2 HA3 RP53 白磁 端反皿 口線部 16c 35 図14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 皿 口線部 3章 16c後半 36 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層	19	図13	巻頭カラー1	SKP044		大窯	丸皿		大窯3前
22 図14 巻頭カラー2	20	図13	巻頭カラー1	SKP044	RP7	銅製品	棒状	頭部有	3.2g
23 図14 巻頭カラー2	21	図14	巻頭カラー2	HA2	RP195	染付	Ш	体部	E群16c後半 蟠螭文
24 図14 巻頭カラー2 HA4 2-3層 染付 皿 体部 16c後半 25 図14 巻頭カラー2 HA4 RP174 染付 皿 底部 16c 26 図14 巻頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 体部 浄州窯か 27 図14 巻頭カラー2 HA2 RP24 染付 皿 底部 28 図14 巻頭カラー2 HA3 RP54 染付 小杯 口-底部 16c 29 図14 巻頭カラー2 HA2 用層 白磁 小原 口線部 16c 30 図14 巻頭カラー2 HA2 RP19 白磁 小碗 口線部 16c 31 図14 巻頭カラー2 HA3 RP53 白磁 端反皿 口線部 16c 33 図14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 畑 口線部 16c 35 図14 巻頭カラー2 HA4A 10YR4/2層 白磁 皿 口線部 16c 37 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 素な 体部 福建省 37 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 素体 重 本 本 </td <td>22</td> <td>図14</td> <td>巻頭カラー2</td> <td>НАЗ</td> <td>RP67</td> <td>染付</td> <td>小皿</td> <td>口縁部</td> <td>16c 四方襷</td>	22	図14	巻頭カラー2	НАЗ	RP67	染付	小皿	口縁部	16c 四方襷
25 図14 巻頭カラー2 HA4 RP174 染付 皿 底部 16c 26 図14 巻頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 体部 漳州縣か 27 図14 巻頭カラー2 HA2 RP24 染付 皿 底部 28 図14 巻頭カラー2 HA3 RP54 染付 小杯 口底部 16c 29 図14 巻頭カラー2 HA4 黒褐色土 青磁 皿 口底部 15c後16c前 30 図14 巻頭カラー2 HA2 II層 白磁 小碗 口縁部 16c 31 図14 巻頭カラー2 HA3 RP53 白磁 端反皿 口縁部 16c 33 図14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 頭 口縁部 16c 34 図14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 頭 口縁部 16c 35 図14 巻頭カラー2 HA4A 10YR4/2層 白磁 皿 口縁部 16c 37 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 五 本	23	図14	巻頭カラー2	НАЗ	RP121	染付	Ш	底部	16c後半
26 図14 巻頭カラー2 HA4 RP404 染付 皿 体部 海州窯か 27 図14 巻頭カラー2 HA2 RP24 染付 皿 底部 海州窯か 28 図14 巻頭カラー2 HA3 RP54 染付 小杯 口-底部 15c後16c前 30 図14 巻頭カラー2 HA2 II層 白磁 小碗 口縁部 16c 31 図14 巻頭カラー2 HA2 RP19 白磁 小碗 口縁部 16c 31 図14 巻頭カラー2 HA3 RP53 白磁 端反皿 口縁部 16c 33 図14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 頭反皿 口縁部 16c 34 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 茶入 体部 福建省 35 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 茶入 体部 福建省 37 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 茶入 体部 福建省 38 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 売額 大路 体部 大窓	24	図14	巻頭カラー2	HA4	2-3層	染付	Ш	体部	16c後半
27 回14 巻頭カラー2 HA2 RP24 染付 皿 底部 16c 28 回14 巻頭カラー2 HA3 RP54 染付 小杯 口-底部 16c 29 回14 巻頭カラー1 HA4A 黒褐色土 青磁 皿 口-底部 15c後16c前 30 回14 巻頭カラー2 HA2 II層 白磁 小碗 口縁部 16c 31 回14 巻頭カラー2 HA2 RP19 白磁 小碗 口縁部 16c 32 回14 巻頭カラー2 HA3 RP53 白磁 端反皿 口縁部 16c 33 回14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 碗 口縁部 16c 34 回14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 碗 口縁部 日を後半 35 回14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 碗 口縁部 哥釉 16c後半 35 回14 巻頭カラー2 HA4 10YR4/2層 白磁 皿 口縁部 哥釉 16c後半 36 回14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 茶入 休部 福建省 37 回14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 茶入 休部 福建省 38 回14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 茶入 休部 福建省 38 回14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 大菜 休部 古瀬戸後 I・II 40 回14 21-1 HA3 I・II層 大窓 皿 底部 大窓 2か3 41 回15 21-1 HA3 RP129 大窓 内秀皿 口底部 大窓 4前 42 回15 21-1 HA4A RP33 大窓 内秀皿 口底部 大窓 3後 43 回15 21-1 HA4A RP33 大窓 天窓 大窓 大窓 2 45 回15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 大窓 4後 47 回15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 大窓 4後 49 回15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁部 登1 49 回15 21-1 HA4A RP323 志野 統	25	図14	巻頭カラー2	HA4	RP174	染付	Ш	底部	16c
28 図14 巻頭カラー2	26	図14	巻頭カラー2	HA4	RP404	染付	Ш	体部	漳州窯か
29 図14 巻頭カラー1 HA4A 黒褐色土 青磁 皿 口-底部 15c後16c前 30 図14 巻頭カラー2 HA2 Ⅱ層 白磁 小碗 口縁部 16c 31 図14 巻頭カラー2 HA2 RP19 白磁 小碗 口縁部 16c 32 図14 巻頭カラー2 HA3 RP53 白磁 端反皿 口縁部 16c 33 図14 巻頭カラー2 HA4 RP186 白磁 端反皿 口縁部 36c後半 34 図14 巻頭カラー2 HA3 白磁 宛 口縁部 36c後半 35 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 茶入 体部 福建省 36 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 茶入 体部 福建省 37 図14 巻頭カラー2 HA3 I・II層 参介物 体部 福建省 38 図14 巻頭カラー2 HA3 RP64 茶入 体部 福建省 38 図14 巻頭カラー2 HA3 RP64 茶入 体部 福建省 39 図14 21-1 HA3 I・II層 古瀬戸 盤類 体部 古瀬戸後I・II 40 図14 21-1 HA3 I・II層 大窯 皿 底部 大窯2か3 41 図15 21-1 HA3 RP129 大窯 内禿皿 口-底部 大窯4前 42 図15 21-1 HA3 RP33 大窯 内禿皿 口-底部 大窯3後 43 図15 21-1 HA4A IOYR4/2層 大窯 天目 体下部 大窯2 45 図15 21-1 HA4 III層上面 大窯 天目 体下部 大窯2 46 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 大窯4後 47 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 大窯4後 48 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 大窯4後 49 図15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁-体部 51 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁- 大窓4-登1	27	図14	巻頭カラー2	HA2	RP24	染付	Ш	底部	
30 図14 巻頭カラー2	28	図14	巻頭カラー2	НАЗ	RP54	染付	小杯	口-底部	16c
31 図14 巻頭カラー2	29	図14	巻頭カラー1	HA4A	黒褐色土	青磁	Ш	口-底部	15c後16c前
32 図14 巻頭カラー2	30	図14	巻頭カラー2	HA2	層	白磁	小碗	口縁部	16c
33 図14 巻頭カラー2	31	図14	巻頭カラー2	HA2	RP19	白磁	小碗	口縁部	16c
34 図14 巻頭カラー2 HA4A 10YR4/2層 白磁 皿 口縁部 哥袖 16c後半 35 図14 巻頭カラー2 HA4A 10YR4/2層 白磁 皿 口縁部 哥袖 16c後半 36 図14 巻頭カラー2 HA3 RP64 茶入 体部 福建省 37 図14 巻頭カラー2 HA2 I層 褐釉 壺か袋物 体部 福建省 38 図14 21-1 HA3 I I II II II II III II II II II II II I	32	図14	巻頭カラー2	НАЗ	RP53	白磁	端反皿	口縁部	16c
Bin	33	図14	巻頭カラー2	HA4	RP186	白磁	端反皿	口縁部	16c
36 図14 巻頭カラー2	34	図14	巻頭カラー2	НАЗ		白磁	碗	口縁部	哥釉 16c後半
2014 巻頭カラー2	35	図14	巻頭カラー2	HA4A	10YR4/2層	白磁	Ш	口縁部	哥釉 16c後半
18 図14 巻頭カラー2	36	図14	巻頭カラー2	НАЗ	・ 層		茶入	体部	福建省
39 図14 21-1	37	図14	巻頭カラー2	НАЗ	RP64		茶入	体部	福建省
HA3	38	図14	巻頭カラー2	HA2	1層	褐釉	壺か袋物	体部	福建省か
41 図15 21-1 HA3 RP129 大窯 内禿皿 口-底部 大窯4前 42 図15 21-1 HA3·4 RP33 大窯 内禿皿 口-底部 大窯3後 43 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 大窯か登 稜皿か 体部 44 図15 21-1 HA1 川層上面 大窯 天目 体下部 大窯2 45 図15 21-1 HA3 川層上面 志野 皿 底部 大窯4後 47 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 登1 48 図15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁・体部 49 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 志野 碗か向付 口縁部 登1 50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	39	図14	21-1	НАЗ	・ 層	古瀬戸	盤類	体部	古瀬戸後Ⅰ・Ⅱ
42 図15 21-1 HA3·4 RP33 大窯 内禿皿 口-底部 大窯3後 43 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 大窯か登 稜皿か 体部 44 図15 21-1 HA1 III層上面 大窯 天目 体下部 大窯2 45 図15 21-1 HA3 II層 大窯 天目 体下部 大窯2 46 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 大窯4後 47 図15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁-体部 49 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 志野 碗か向付 口縁部 登1 50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	40	図14	21-1	НАЗ		大窯	ш	底部	大窯2か3
43 図15 21-1	41	図15	21-1	НАЗ	RP129	大窯	内禿皿	口-底部	大窯4前
44 図15 21-1 HA1 III層上面 大窯 天目 体下部 大窯2 45 図15 21-1 HA3 II層 大窯 天目 体下部 大窯2 46 図15 21-1 HA1 III層上面 志野 皿 底部 大窯4後 47 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 登1 48 図15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁・体部 49 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 志野 碗か向付 口縁部 登1 50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	42	図15	21-1	HA3·4	RP33	大窯	内禿皿	口-底部	大窯3後
45 図15 21-1 HA3 II層 大窯 天目 体下部 大窯2 46 図15 21-1 HA1 III層上面 志野 皿 底部 大窯4後 47 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 登1 48 図15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁-体部 49 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 志野 碗か向付 口縁部 登1 50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	43	図15	21-1	HA4A	10YR4/2層	大窯か登	稜皿か	体部	
46 図15 21-1 HA1 III層上面 志野 皿 底部 大窯4後 47 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 登1 48 図15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁-体部 49 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 志野 碗か向付 口縁部 登1 50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	44	図15	21-1	H A 1	Ⅲ層上面	大窯	天目	体下部	大窯2
47 図15 21-1 HA4 RP168 志野 皿 底部 登1 48 図15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁-体部 49 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 志野 碗か向付 口縁部 登1 50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	45	図15	21-1	НАЗ	層	大窯	天目	体下部	大窯2
48 図15 21-1 HA4A RP241 志野 大皿 口縁・体部 49 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 志野 碗か向付 口縁部 登1 50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	46	図15	21-1	H A 1	Ⅲ層上面	志野	Ш	底部	大窯4後
49 図15 21-1 HA4A 10YR4/2層 志野 碗か向付 口縁部 登1 50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	47	図15	21-1	HA4	RP168	志野	Ш	底部	登1
50 図15 21-1 HA5 RP323 志野 鉄絵皿 口縁部 51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	48	図15	21-1	HA4A	RP241	志野	大皿	口縁-体部	
51 図15 21-1 HA5 RP262 志野 皿 体下部 大窯4-登1	49	図15	21-1	HA4A	10YR4/2層	志野	碗か向付	口縁部	登1
	50	図15	21-1	HA5	RP323	志野	鉄絵皿	口縁部	
52 図15 21-2 HA2 II層 唐津 皿 口縁部 被熱	51	図15	21-1	HA5	RP262	志野	Ш	体下部	大窯4-登1
	52	図15	21-2	HA2	層	唐津	Ш	口縁部	被熱

表2 掲載遺物一覧

No.	挿図No.	図版No.	出土地点	層位他	器種	種別	部位	産地・分類
53	図15	21-2	HA3·5		唐津	Ш	口-底部	
54	図15	21-2	HA3	RP136	唐津	碗	体-底部	
55	図15	21-2	HA3	盛土	唐津	胎土目皿	底部	
56	図15	21-2	HA3·5		唐津		口縁-体部	
57	図15	21-2	HA5	RP292	唐津	胎土目皿	底部	
58	図15	21-2	HA4	RP357	唐津	盤類か大皿		
59	図15	21-2	HA4NA	暗褐色土	唐津	胎土目皿	底部	
60	図15	21-2	HA1	川層上面	絵唐津			
\vdash		21-2						
61	図15		HA1	層	絵唐津		底部	
62	図15	21-2	HA2	RP27	絵唐津	向付か碗	口-体部	
63	図15	21-2	HA2	+ .	絵唐津	碗	口縁部	
64	図15	21-2	HA4	表土	絵唐津		底部	10.1
65	図16	21-3	HA3·4	ベル	備前	擂鉢	口縁部	16c末
66	図16	21-3	НАЗ	2層	備前系	擂鉢	口縁部	
67	図16	21-3	HA5	RP255	備前系	擂鉢	底部	
68	図16	21-3	НАЗ	RP163	備前系	擂鉢	口-体部	
69	図16	21-3	НАЗ	RP65	越前	擂鉢	口縁部	
70	図16	21-3	НАЗ	RP146	越前	擂鉢	体部	
71	図16	21-3	HA4NA	黒褐色土	越前	擂鉢	体部	16c
72	図16	21-3	HA4NA	暗褐色土	越前	擂鉢	体部	16c
73	図16	21-3	HA4NA	RP331	越前	壺	底部	16-17c
74	図16	21-3	HA4	2-3層	信楽	擂鉢	体部	
75	図16	21-3	HA5	RP254	信楽	擂鉢	体部	
76	図16	21-3	НАЗ	RP118	信楽	擂鉢	底部	
77	図16	22-1	HA4NA	黒褐色土	土器	瓦質		
78	図16	22-1	HA4NA	黒褐色土	土器	かわらけ	底部	
79	図16	22-1	HA1北半	層	土器	かわらけ	口-体部	
80	図16	22-1	HA4	2-3層	土器	かわらけ	口-体部	
81	図16	22-1	H A 1	RP463	土器	かわらけ	口縁部	油煙付着
82	図17	22-1	НАЗ	RP49	土製品	土錘		
83	図17	22-1	HA5	RP261	土製品	土錘		
84	図17	22-2	H A 1	RM12	鉄製品	釖		13.3g
85	図17	22-2	H A 1	RM13	鉄製品	筒状		30.7g
86	図17	22-2	H A 2	RM16	鉄製品	板状		5.3g
87	図17	22-2	НАЗ	RM113	鉄製品	刀子		15.9g
88	図17	22-2	НАЗ	RM58	鉄製品	刀子		1-2層
89	図17	22-2	НАЗ	RM72	鉄製品	刀子		17.7g
90	図17	22-2	HA5	RM257	鉄製品	釘		6.1g 木質
91	図17	22-2	HA5	RM274	鉄製品	釘		26.6q
92	図17	22-2	HA5	RM274	鉄製品	釘		9.3g
93	図17	22-3	HA2	RM39	銅製品	針状		1.9g
94	図17	22-3	HA2	RM44	銅製品	針状		0.5g
95	図17	22-3	HA3	盛土	銅製品	球状		1.2g
96	図17 図17	22-3	HA5	無工 RM296	t	碗か	□ 绿如	1.2g 1.9q
\vdash					銅製品		□縁部	
97	図17 図17	22-3	HA3	盛土	銭貨	永楽通寶		1.4g
98	図17	22-3	HA2	確認面	金属製品	弾		7.7g
99	図17	22-3	HA4	RM182	金属製品	弾		11.8g
100	図17	22-3	HA5	RM243	金属製品	弾		5.9g
101	図17	22-3	HA2	IV層	琥珀	玉状		0.2g
102	図17	22-3	H A 1	RM8	碗形滓か	鉄滓		109.1g
103	図18	21-2	N A	RP18	唐津	胎土目皿	底部	外面から底部にスス付着
104	図22	21-3	TP4	3層	越前	擂鉢	体部	

表2 掲載遺物一覧

時期は16世紀から 17世紀初頭で、1610年より新しい時期を含む。なお、古瀬戸は後期 I・II 期で、唯一14世紀に属する遺物である。

土器・瓦質土器

土器が15点出土した。うち7点はかわらけ(78~81)である。端反の口縁部には、油煙の付着したものがみられる(81)。灯明具として使用されたと考えられる。また、3点の瓦質土器が出土した。うち1点を図化した(77)。

金属製品・土製品・鉄滓など

鉄製品は大部分が釘、棒状の形態を示す。ほかに、刀子(12、87~89)、筒状(85)、板状(86)などの鉄製品が出土している。SK26からは10点近くの釘が出土しており、折れたものや曲がったものなどがみられる。鉄製品には木質を残すものが数点みられた。金属製品の中で少なからず磁着するものを鉄製品と判断した。第2調査区で釘、板状の鉄製品、本丸トレンチから釘1点が出土したのを除き、大部分が第1調査区からの出土である。

銅製品には、銭貨のほか、線状2点 (93・94)、球状1点 (95) などが含まれる。そのほか、弾と考えられる球状の遺物が3点 (98~100) 出土した。銭種は1字以上判読できるものが永楽通宝1点 (97)、大□□宝1点 (6)、□聖□□1点で、そのほかにも微細な破片が数点出土している。径は永楽通宝22mm、大□□宝推定 24mmで、□聖□□の残存率は4分の1に満たないために不明である。弾の径は11~13mmである。

土製品は、土錘(82・83)やフイゴ羽口と考えられる破片が数点出土している。数には含まないが、主にHA5から、焼成された土の塊や、溶融した破片なども出土した。

鉄滓は微細なものを含め30点以上が出土した。主に鍛冶滓と考えられる。比較的大きな1点を図化した (102)。HA1からの出土で、微細なものはHA5付近を中心に出土した。そのほかに、磁着する塊が11 点出土しており、鉄塊の可能性がある。これら鉄生産に関わる遺物の詳細については今後検討する必要がある。

小 結

第1調査区では、平場部分で概ね16世紀から17世紀初頭に遺物が出土した。遺構の多くはIV層あるいは地山面での検出で、ほぼ同時期に属すると考えられる。遺構の切合いから、SK10やSKPO09がSKPO44に切られており、SKPO09からは16世紀後半の中国産染付皿が出土し、SKPO44からは唐津皿が出土していることから、少なくとも2時期の使用が想定される。しかしながら、平場の堆積土は一様でなく、平場造成の痕跡も明確でないため、層位的な把握が困難であった。遺構外出土遺物からも、17世紀初頭までの遺物が出なくなる層との区別はできなかった。

HA4、4A、5においては、盛土造成の痕跡が確認された。今回の調査では地山まで到達せず、目的とした虎口の痕跡は今年度調査では検出に至らなかった。しかしながら、盛土造成の黒褐色土層中から青磁皿が出土したことや、暗褐色土層で唐津や志野が出土したことから、16世紀後半以前の盛土造成と、17世紀初頭の地業痕跡が明らかになった。さらにその上に盛土が形成されているが、遺物の出土が見られず、17世紀初頭以降の造成ということ以上には時期判断が難しい。少なくとも近代の

公園造成以前にこれらが行われたということができる。

碗や皿などの遺物から日常・儀礼的な空間があったほか、擂鉢があることから調理を行う場所の存在や、鉄生産関連の遺物からは鍛冶工房的な作業空間の存在が想定される。

第2調査区は、三の丸からの公園の登り道の進入を想定した部分に設定した。堆積が浅く、近代以降の削平を受けている可能性がある。近代以前の層が残るものの、多くは近代に撹乱された層からの出土である。日常・儀礼的な空間が想定できる。

今回の調査では、第1調査区で古瀬戸後期の盤類1点が出土したほかは、ほぼ16世紀から17世紀初頭の時期に収まる。「本丸」の使用時期はこの時期と考えられ、安東氏国替え前から多賀谷氏入城のころまでにあたる。日常的な器の一定量の出土から、中世の城主空間として使われた空間を継承したものと解釈できる。

現状変更のための調査からは、将軍山地区南のTP4から越前産擂鉢(104)1点が出土した。わずかではあるものの、16世紀には将軍山地区の南に日常の空間があったことが想定される。

2. 全体の成果と課題

第1調査区は「本丸」曲輪の建物の有無と規模、虎口の有無と形態を調べることを目的に設定した。 3年計画の1年目であり、曲輪東側の、虎口想定地点に近い範囲に調査区を設けた。

「本丸」標高は146m前後で、目視ではほぼ平坦な、段差のない一つの曲輪として認識していた。矩形などの規格性を持って調整されたものではないが、縁辺は直線的な組み合わせで構成されている。その中で、一部角が欠けているような様相を呈する場所が数カ所見られるほか、東辺の中央付近には大きく括れた部分がみられる。これまでに縄張り調査でも括れ部分には虎口の可能性が指摘されている。調査区は $HA1\sim3$ が平場、4、4A、5が括れ部分に向かってやや落ち込む地形に設定した。建物の可能性のある柱穴は $HA1\sim3$ で検出され、並ぶ可能性はあるものの、構成する柱穴数が少なく、明確でない。しかしながら、調査区の東端に検出されたため、これ以上は、曲輪の東の縁に作られた建物ということになるため、曲輪の主体となる建物ではないと判断した。

検出面は一部地山まで達しており、城の造成で、山を削って平地を作り出している可能性もある。 HA2、3では、括れ部分の方向に向かって溝が伸びており、虎口が存在したとすれば、何らかの

関連が想定できる。

虎口想定部分は、今年度調査では、虎口施設の痕跡は検出できなかった。しかしながら、地山までは達しなかったため、今後の調査によっては、痕跡が検出される可能性がある。想定した硬化面や門などの施設の痕跡ではないが、HA4Aでは、ステップ状の痕跡が見つかった。調査によって、括れ部分に向かう落ち込みの造成の様相が明らかになった。16世紀後半以前に盛土造成が行われるとともに、曲輪の中に一段低い面を作り出している可能性がある。次に16世紀末から17世紀初頭にその面を整地した生活面を構築している。その後の盛土造成で現況に近い地形が作られている。ステップ状の遺構は16世紀後半以前の盛土の前に構築されたものと考えられる。また、HA5では粘土の広がりが面的に検出され、作業面であるのか、盛土の一部であるのか判断し難いが、黒褐色土層より上層で検出された。これらのことから、時期ごとに複数の使用があったことがわかる。虎口の検出や建物の規

模が明らかにならなかった。建物を構成する柱穴の存在や、曲輪東縁辺の使用の様相の解明など一定の成果があったものの、本来の目的は達せられたとはいえず、今後は虎口の確認を継続するとともに、曲輪の全体を探るために、建物の位置の確定を進める必要があると考える。堆積が一様でないことからも、曲輪全体で層位を記録し、城の建物が建てられた層位の把握も同時に必要であろう。

第2調査区は、現在遊歩道として整備されている「三の丸」から「二の丸」への進入口付近に設定し、公園造成以前の痕跡があるかを調査した。堆積が薄く、近代の削平の可能性が考えられる。それ以前の層が残っているが、中世の可能性があるものの時期は判然としない。進入路あるいは曲輪の北縁に向かって落ち込みが確認できるが、硬化面などは確認できない。更に、現地形では進入路に向かって平らに造成されており、これが城の最終形態を示すと仮定すれば、遺物の最終年代の16世紀末には少なくとも道ではなかったことになる。

「二の丸」については、今後建物の有無や規模を確かめる調査を行うこととしているが、進入路について、「二の丸」の構造全体を見極めながら検討していくために、堆積の様相と、南側の土塁状の地形についても調査を進めていく。

「本丸」トレンチは、曲輪造成の痕跡を確認にすることを目的に設定した。盛土によって切岸が造成されていることが判明したほか、「本丸」北西側では平場も盛土によって広げられていることが明らかになった。遺物は釘1点のみで、陶磁器の出土はなかったため、時期は判然としない。しかしながら、土坑の確認プランが検出されたことや、炭の薄い堆積が面的に確認されたことから、現地形を城の最終形態として、それ以前に低い面を生活面とした時期があったことが明らかになった。

この部分は「二の丸」から「本丸」への唯一の連絡路であり、虎口空間の改変であったかもしれない。現況での切岸の形態から、切岸と曲輪の形状を整えるための造成に伴う盛土造成によって形成されていると考えることができる。

基準杭や案内板の設置個所について行った、現状変更のための試掘調査では、中館から茶園にかけての尾根道に、道の造成に関わると考えられる掘り込みが見つかったほか、城の南から城外に延びる白坂道にも、造成の痕跡と硬化面が検出された。これによって城の中の道の存在や、広域な造成の様子が確認できた。また、将軍山の南でも道として機能したと考えられる平場の造成痕跡が確認された。基準杭・案内板については、試掘の範囲内での設置が可能である。

【参考文献】

愛知県 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』

秋田地所(有)・秋田市教育委員会 1981 『後城遺跡発掘調査報告書』

男鹿市教育委員会 2013 『国指定史跡脇本城跡―総括報告書―』

佐賀県立九州陶磁文化館 2016 『特別企画展日本磁器の源流』

全国シンポジウム 「中世窯業の諸相〜生産技術の展開と編年〜」 実行委員会 2005 『中世窯業の諸相〜生産技術の展開と編年〜資料集』

日本貿易陶磁研究会 1998 『貿易陶磁研究』 No.1-5 六一書房

能代市教育委員会 2004 『檜山城と檜山城跡』

萩原三雄・中井均編 2016 『中世城館の考古学』 高志書院

藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』

「肥前磁器の流通について―17世紀前半の出土資料を中心に―」平成28年度 第44回東洋陶磁学会有田大会発表資料

水澤幸一 2009 『日本海流通の考古学』 高志書院



第1調査区調査前(南→)



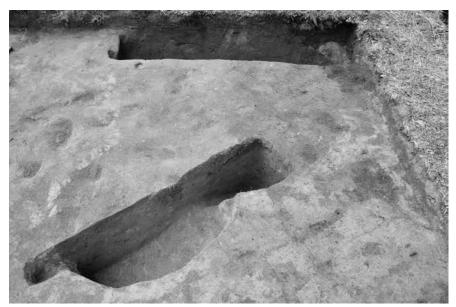
第1調査区全景(南東→)



第2調査区調査前(南東→)



「本丸」トレンチ調査前(東→)



S K O 1 · 1 3 土坑 (北東→)



S K O 1 · 1 3 土坑土層 (北東→)



SKO2土坑土層 (南東→)

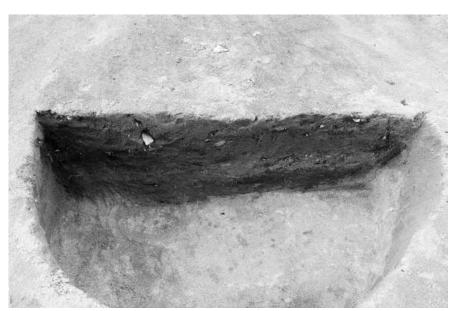
SKO3土坑 (南→)



S K O 4 土坑半さい状況 (南西→)

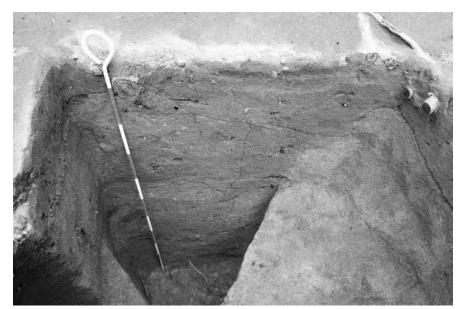


S K O 5 土坑土層 (南東→)





S K O 9 土坑土層 (南西→)



S K 1 O土坑土層 (南西→)

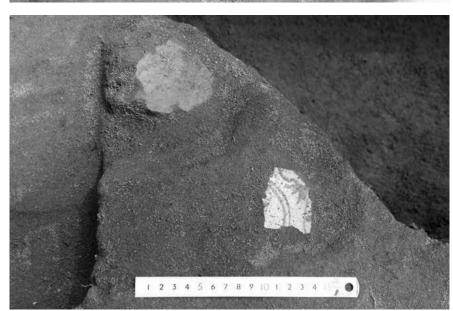


S K 1 O土坑遺物出土状況 (北西→)

S K 1 1土坑半さい状況 (南西→)

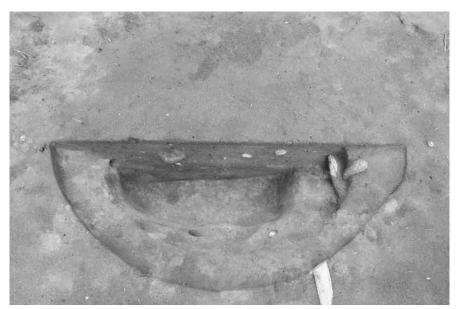


S K 1 1 土坑遺物出土状況 (南西→)



S K 1 2土坑・S K P O 1 7 柱穴様ピット土層 (南西→)

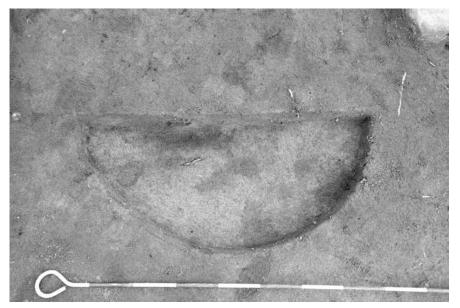




S K 1 8土坑半さい状況 (南西→)



S K 1 9土坑土層 (南西→)



S K 4 5 土坑半さい状況 (南西→)



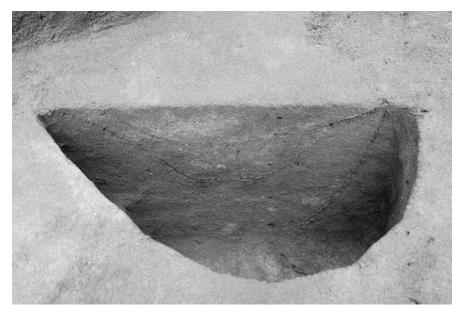
SKPOO8柱穴様ピット土層 (北西→)

SKP009柱穴様ピット土層 (北西→)



S K P O O 9 柱穴様ピット 遺物出土状況 (西→)

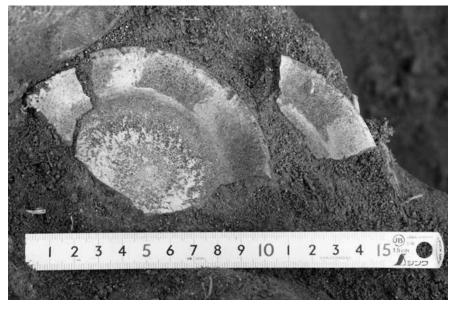




S K P O 1 O柱穴様ピット土層 (南→)

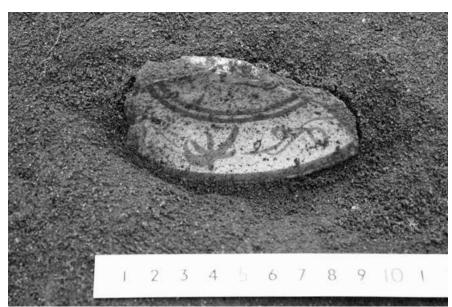


SKPO44·SK10· SKPOO9切合い状況 (北西→)

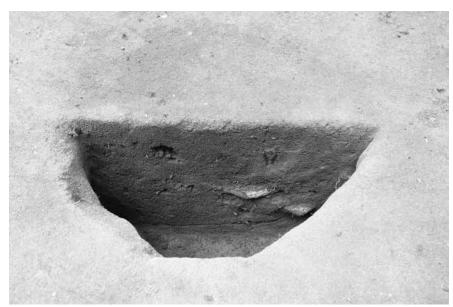


SKPO44遺物出土状況 (西→)

HA1遺物出土状況



S K 2 6 土坑土層 (北東→)



S K 2 8土坑半さい状況 (北東→)





S K 5 1 土坑土層 (南西→)

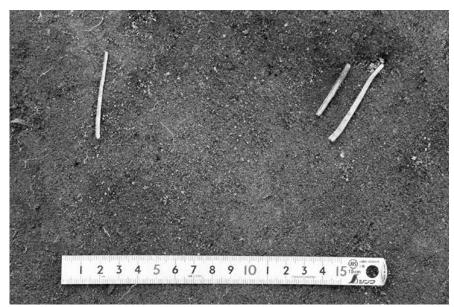


S D 1 5 溝跡・S K 1 6 土坑土層 (南東→)



SD15溝跡調査終了状況 (南→)

銅製品出土状況

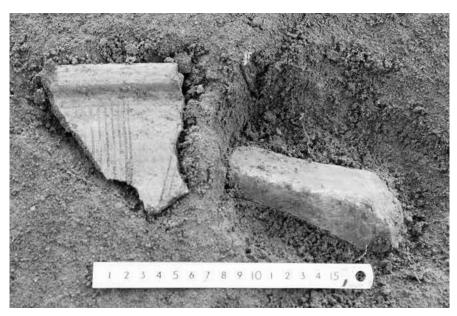


弾出土状況



S K 2 2 土坑土層 (南西→)

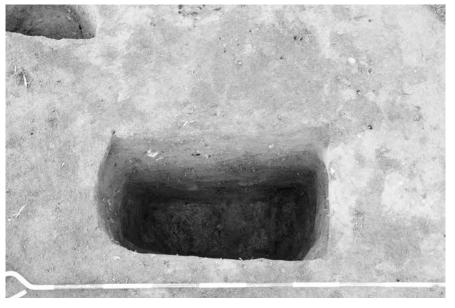




SK22土坑遺物出土状況 (北東→)

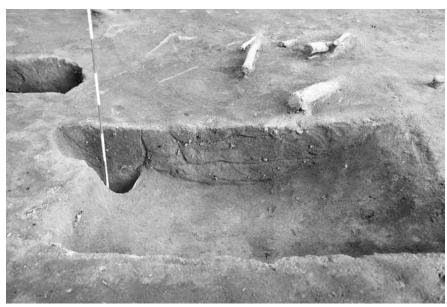


S K 1 7土坑・S D 3 5溝跡土層 (西→)



SKPO67柱穴様ピット土層 (南東→)

SD35溝跡・SKPO65 柱穴様ピット土層 (北→)



HA4 AA' 土層 (東→)



HA5調査終了状況 (南東→)





HA5 AA' 土層北半 (南西→)

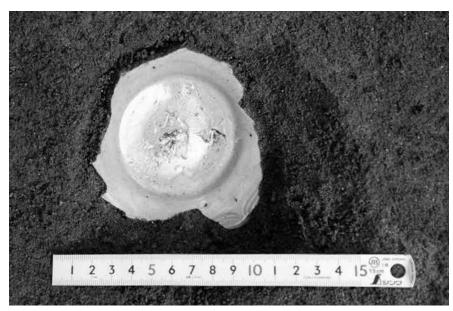


HA5粘土範囲 (北→)



HA4A黒褐色土層検出状況 (東→)

HA4A青磁出土状況 (北東→)



HA4A BB' 土層 (南東→)



HA4A北東半 AA'土層 (南西→)





第2調査区調査終了状況 (南→)



「本丸」トレンチ調査終了状況 (南→)



「本丸」トレンチ北半土層 (南西→)

T P 1 調査前 (南東→)



TP1調査終了状況 (北西→)



TP1 AA' 土層 (南東→)





TP2調查終了状況 (北→)



TP2土層 (南→)



TP3調査終了状況 (南西→)

TP3深掘り土層 (南西→)

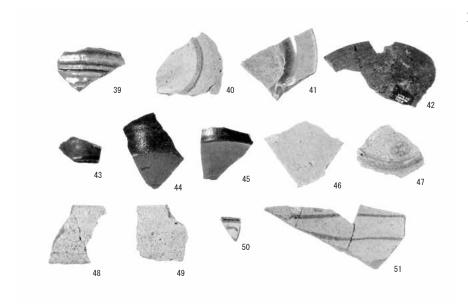


TP4調査状況 (南西→)

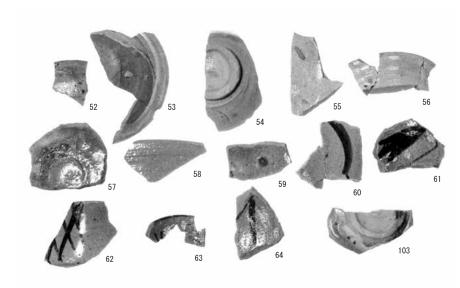


TP4深掘り土層 (南西→)

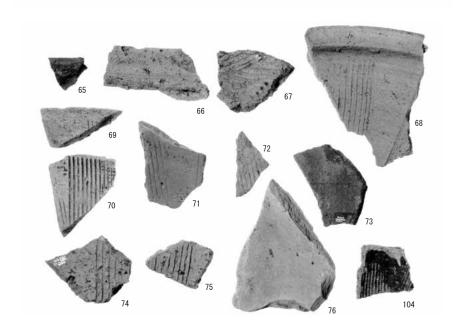




1. 遺構外出土遺物 陶磁器②

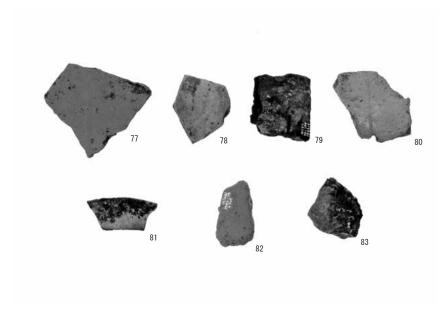


2. 遺構外出土遺物 陶磁器③

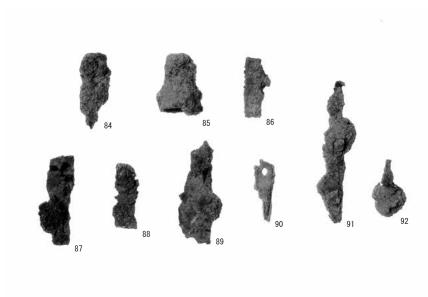


3. 遺構外出土遺物 陶磁器④

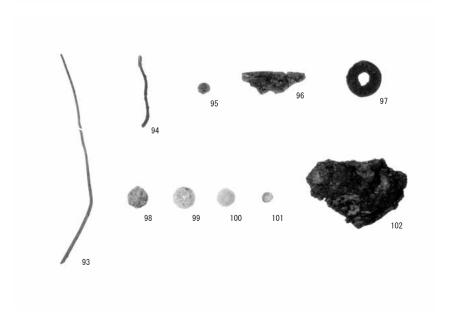
1. 遺構外出土遺物 瓦質土器・土器・土製品



2. 遺構外出土遺物 鉄製品



3. 遺構外出土遺物 金属製品・琥珀・鉄滓



報告書抄録

ふりがな	くにしてい	しせきひや	アまあんと	どうしし	じょうか	いんあとひゃ	やまじょう	あとよん	
書名		くにしていしせきひやまあんどうしじょうかんあとひやまじょうあとよん 国指定史跡檜山安東氏城館跡 檜山城跡IV							
副書名	令和元年度	第4次発掘	配調査報告	 卡書					
編著者名	播摩芳紀								
編集機関	能代市教育	能代市教育委員会							
所 在 地	₹018-3192	〒018-3192 秋田県能代市二ツ井町字上台1番地1 TEL 0185-73-5285							
発行年月日	西暦202	0年3月3	1 月						
所収遺跡名	所 在 地	市町村は	- ド 遺跡番号	北緯。//	東経。,,,,,	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
冷水水	あきたけん のしろし 秋田県 能代市 東京であるしる。 大橋山まで古城、 大間 木 地内	05202	202-2 ·109	40° 9' 45"	140° 7′ 21″	20190522 ~ 20191127	2 0 8	檜山城跡 環境整備 に伴う発 掘調査	
<u>所収遺跡名</u> 檜山城跡	種別 主な時 城館跡 中世 〜近	道跡			主器器製製製業 建制品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品品	よ 遺 物	特記	事項	

能代市文化財調查報告書第11集 国指定史跡檜山安東氏城館跡

檜山城跡IV

-令和元年度第4次発掘調査報告書-

印刷・発行 令和2年3月

編集·発行 能代市教育委員会

T 0 1 8 - 3 1 9 2

秋田県能代市二ツ井町字上台1番地1

TEL 0185-73-5285

FAX 0 1 8 5 - 7 3 - 6 4 5 9

製本・印刷 株式会社 大潟印刷